AMDA ジャーナル ー国際協力ー　2023 年夏号　付録　2023 年 7 月 25 日発行　□発行定日　年 4 回（1・4・7・10 月　各 25 日）

2022 年度

AMDA 年次報告書

2022.4.1 ～ 2023.3.31

トルコ地震被災者緊急支援活動

2022 年度も世界では多くの心を痛めるような出来事が起こりました。ウクライナでは、緊迫した事態は深刻化し、長期化する様相を呈しています。ウクライナ国外へ避難される方々、生命の危機を感じながらもウクライナでの困難な生活を強いられている方々に対し、AMDA は刻々と変化する状況にあわせ、現地の団体とともに支援活動を行っています。他にも、トルコ地震等、災害で被災された方々に対しても、被災地の関係機関と連携しながら医療や食糧支援などを実施してまいりました。

そして今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、数年ぶりに、いくつもの対面によるプロジェクトが再開されました。コロナ禍で「会うこと」が制限された数年があったからこそ、現地で支援を待つ方々とプロジェクト再開をともに喜び、その長年のパートナーシップに改めて感謝しました。

今後も AMDA は、「相互扶助」の精神で活動してまいります。これまで AMDA の活動にご支援いただいている皆様に改めて心より御礼申し上げます。

AMDA の「平和」の定義

「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」

平和の阻害要因

1. 紛争、戦争
2. 災害
3. 貧困

阻害要因を克服するプログラム

GPSP プログラムコンセプト

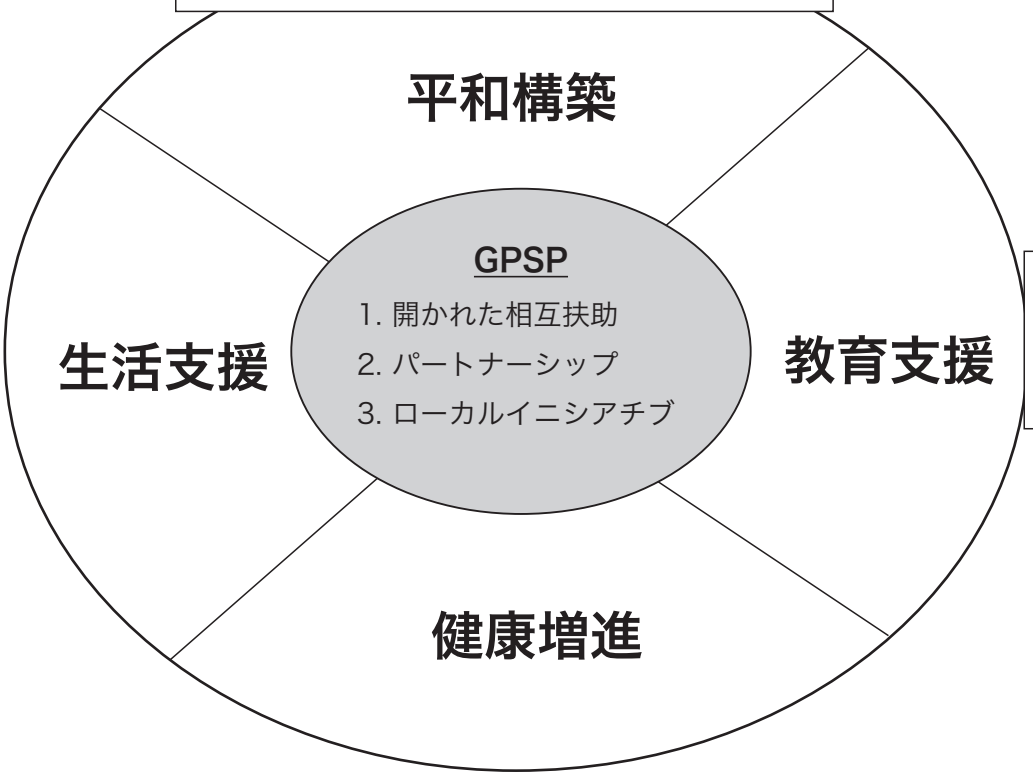
①開かれた相互扶助
②パートナーシップ
③ローカルイニシアチブ

*GPSP とは、世界平和パートナーシップ (Global Partnership for Sustainable Peace) の略

GPSP 4 分野

・平和構築
・健康増進
・教育支援
・生活支援

関連プラットフォーム
1. AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム
2. 世界災害医療プラットフォーム：アジア・大洋州版



関連プラットフォーム
1. AMDA こども食堂支援プラットフォーム

GPSP プログラム分類表

平和構築分野
①難民支援事業 a) 緊急支援 b) 復興支援
②災害支援事業 a) 緊急支援 b) 復興支援
③災害対応プラットフォーム a) 南海トラフ災害対応プラットフォーム b) 災害鍼灸
④世界災害医療プラットフォーム
⑤災害医療機動チーム

健康増進分野
①プライマリーヘルスケア事業
②医療技術移転事業
③医療支援事業
④友好病院事業

教育支援分野
①グローバル人財育成事業
②こども食堂支援プラットフォーム事業

生活支援分野
①有機農業事業

*** プライマリーヘルスケア（AMDA の考える定義）：**
貧困の環境下での健康増進を目的とし、以下 3 種類の活動を含むものが望ましい。
①住民参加
②知識を広める活動
③社会的及び経済的改善に向けての活動

目次

平和構築
活動写真 …… 3
1. 災害支援事業（緊急支援活動）…… 7
緊急支援　時系列一覧
ウクライナ避難者支援活動（2023 年より「ウクライナ人道支援活動」に名称変更）
トルコ地震被災者緊急支援活動
パキスタン洪水被災者支援活動
フィリピン台風 22 号（2022 年）被災者緊急支援活動
インドネシア・ジャワ島地震被災者緊急支援活動
2. 災害支援事業（復興支援活動）…… 14
東日本大震災復興支援活動
ハイチ　2021 年地震復興支援スポーツプロジェクト
国内避難民キャンプ医療支援活動
第 12 回歯科プロジェクト
3. 南海トラフ災害対応プラットフォーム …… 18
4. 世界災害医療プラットフォーム：アジア・大洋州版 …… 19
5. 災害医療機動チーム …… 20
6. その他 …… 20
AMDA･JA 岡山 緊急時物資支援センター みつ STATION　開所式
写真展「写真で語るウクライナ避難者支援」
大使館訪問
出版「見放さない！その命　ウクライナ人道支援日誌
～世界大動乱（大恐慌）を乗り越える～」

健康増進
活動写真 …… 23
1. プライマリーヘルスケア事業 …… 25
インド・ブッダガヤ AMDA ピースクリニック母子保健事業
カンボジア・青少年のリプロダクティブヘルス / ライツに関するワークショップ
2. 医療技術移転事業 …… 26
日本モンゴル教育病院内視鏡技術研修
モンゴル救命救急研修
ネパール内視鏡技術研修事業
3. 友好病院事業 …… 29
アフガニスタン、ネパール、バングラデシュ、モンゴル

教育支援
活動写真 …… 31
1. グローバル人財育成事業 …… 32
AMDA 中学高校生会
2. こども食堂支援プラットフォーム …… 33
3. その他 …… 34
JICA 日系社会研修（多文化共生推進 / 日系協力型）″日系サポーター″：
ペルー人研修員受入
インド・ブッタガヤで現地の NGO 学校への支援

生活支援
1. 有機農業事業 …… 37
マリノ・フードプログラム
2. その他 …… 37
インド・ブッタガヤ「お年寄りの家」への支援
インド・ブッタガヤでの食事支援

連携協力協定調印
団体概要
AMDA 役員
国内の動き
会計資料

平和構築

災害支援（緊急支援活動）

ウクライナ避難者支援活動

（2023 年より「ウクライナ人道支援活動」に名称変更）

子どもたちと絵を描く AMDA 医師

スポーツイベントに参加した子どもたちに
ぬいぐるみを渡す AMDA 看護師

日本からの寄せ書きが入った法被を着て、ウクライナ・ハンガリー人が交流する料理イベントに参加

メディカルチェックシートで避難者の
健康状態を確認する AMDA 看護師

ウクライナの子どもたちにプレゼントを
配るサンタクロース

トルコ地震被災者緊急支援活動

トルコ医師会と

被災地アドゥヤマン市

赤ちゃんの健康状態をチェックする AMDA 医師

村で活動を終えた後、AMDA チームが乗る車の窓ガラスに書かれたトルコ語･英語･クルド語の「ありがとう」

パキスタン洪水被災者支援活動

水がひかない被災地

食糧を提供する AMDA 調整員

フィリピン台風 22 号（2022 年）支援活動

物資支援の様子（提供：株式会社キッカワ）

インドネシア・ジャワ島地震被災者緊急支援活動

避難者を診察する AMDA インドネシア医療チーム

災害支援（復興支援活動）

東日本大震災復興支援活動

コロナ支援物資配布の様子

宮城県南三陸町長を表敬訪問

ハイチ

国内避難民医療支援

国内避難民食糧支援

その他

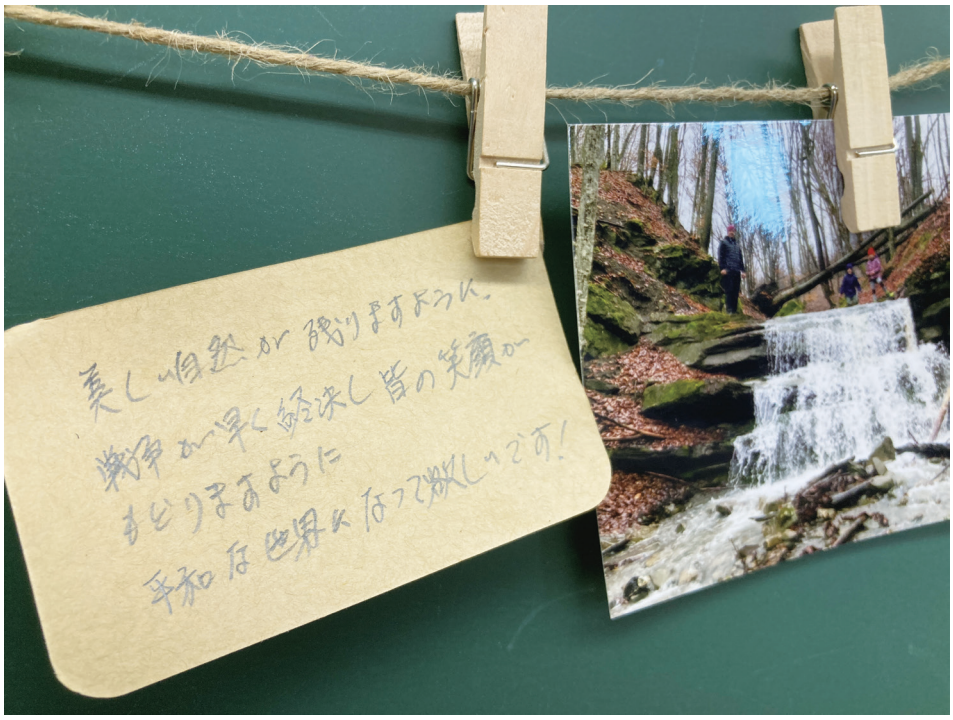
写真展「写真で見るウクライナ避難者支援活動」

岡山市内での写真展の様子

大阪府堺市内での写真展の様子

日本の子どもたちに平和の絵を描いてもらった

ウクライナを思って描いてくれた絵

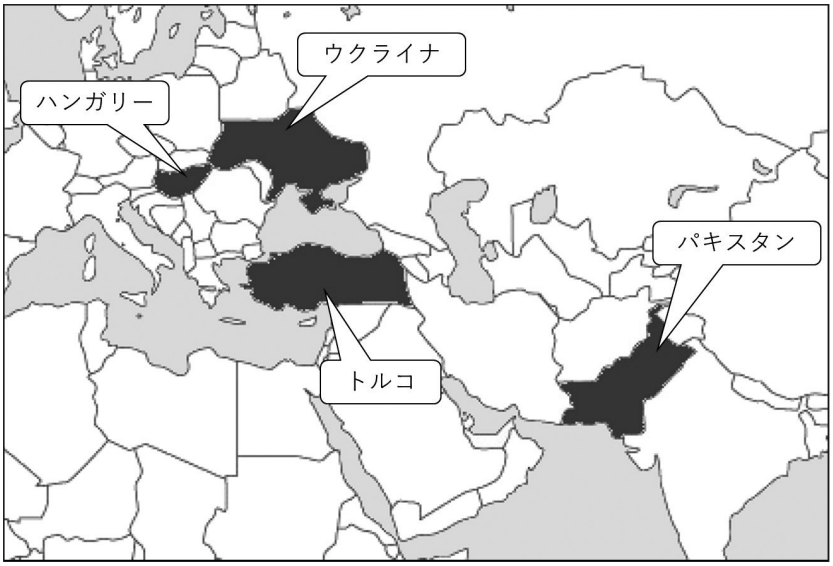


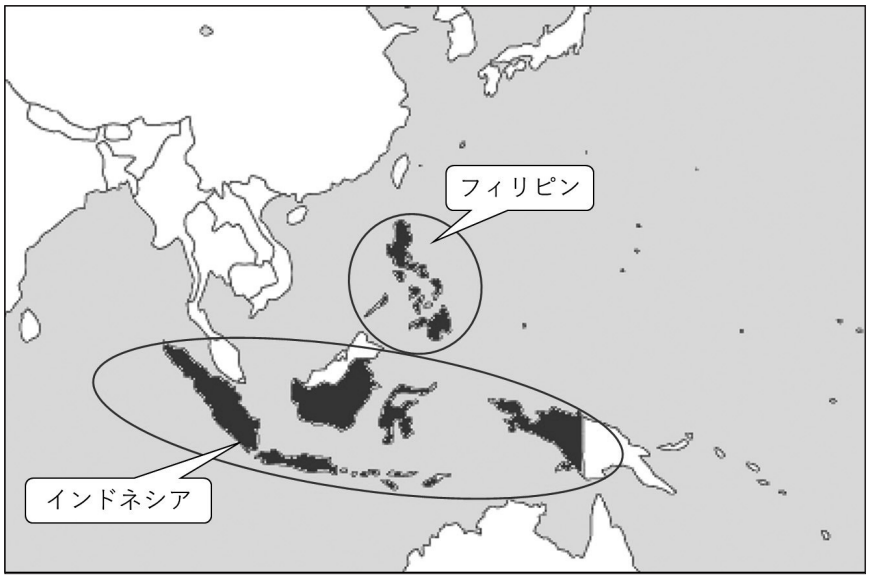
人道危機発生前のウクライナの風景と来場者のコメント

1　災害支援事業　－緊急支援活動－

【災害支援（緊急支援）時系列一覧】

支援活動	活動期間	活動実施地域
ウクライナ避難者支援活動 （2023 年より「ウクライナ人道支援活動」に名称変更）	22/3/7 ～継続中	ハンガリー（キシュバールダ、ベレグスラーニー、ザホニー）、ウクライナ
パキスタン洪水被災者支援活動	22/9/20 ～ 22/12	イスラマバード、シンド州
フィリピン台風 22 号 (2022 年) 被災者緊急支援活動	22/11/13 ～ 14	ミンダナオ島サンボアンガ
インドネシア・ジャワ島地震被災者緊急支援活動	22/11/25 ～ 27	ジャワ島チアンジュール県
トルコ地震被災者緊急支援活動	23/2/10 ～継続中	イスタンブール県、アンカラ県、アダナ県、カフラマンマラシュ県、アドゥヤマン県、マラティア県、エラズー県





■ウクライナ避難者緊急支援活動（2023 年より「ウクライナ人道支援活動」に名称変更）

◇**実施場所：**　ハンガリー (キシュバールダ、ベレグスラーニー、ザホニー)、ウクライナ
◇**実施期間：**　2022 年 3 月 7 日～継続中
◇**派遣者**（2022 年度・派遣順）：　難波 妙 / 調整員 / AMDA 理事、榎田 倫道 / 看護師（日本・オランダ資格）/ Nieuw Unicum（オランダ･福祉施設）、佐藤 拓史 / 医師（日本資格）/ AMDA 理事、吉田 純 / 医師（日本･ハンガリー資格）/ 岡山大学病院卒後臨床研修センター・TICO、鈴記 好博 / 医師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、長谷 奈苗 / 看護師 / AMDA 本部職員、池田 敬 / 調整員 / AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、東島 紋子 / 看護師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、押谷 晴美 / 看護師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、菊池 友枝 / 看護師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー
◇**現地協力者**（活動順）：　志井田 海 / ハンガリー国立センメルワイス大学医学部、光井　一輝 / ハンガリー国立センメルワイス大学医学部、大堀 裕太郎 / ハンガリー国立センメルワイス大学医学部
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDA 本部、ハンガリー国立センメルワイス大学、ヴァルダ伝統文化協会、メドスポット、セントミッシェル小児総合リハビリセンター、ダイナスティメディカルセンター
◇**受益者数**（2022 年度）：
ウクライナ国外避難者：医療支援 753 人、その他（マッサージ・心のケア含む）155 人
ウクライナ国内避難者：食糧・物資支援 100 世帯、子どもたちへのクリスマスプレゼント 100 人
◇**受益者の声：**
「私は毎日神に祈ります。それがすべて悪魔のように私たちに起こるのは残念です。」
「ありがとう。本当にありがとう。」
◇**事業内容：**
2022 年 2 月下旬のウクライナの人道危機により、2023 年 1 月の時点で 1,800 万人が自分や家族を守るため周辺国に避難した。AMDA は 2022 年 3 月 7 日より日本人医師 1 人とハンガリー国立センメルワイス大学医学部日本人学生 1 人が、避難者が避難する隣国ハンガリーでニーズ調査を開始。3 月 9 日より AMDA・TICO 合同医療チームを結成し医療支援開始。10 月までに医師 5 人、看護師 6 人、調整員 3 人の計 14 人をハンガリーへ派遣し支援活動を行った。10 月 15 日より調整員 2 人を派遣し、現地主導で支援が行えるように調整、現在も現地協力団体主導のもと支援を継続している状況である。

①ウクライナからハンガリーへの避難者支援

1）ベレグスラーニーでの医療支援

ウクライナの国境を越えてハンガリーの国境の村ベレグスラーニーに避難してくる避難者のために「ヘルプセンター」が設置されている。そこでハンガリーなどの医療者とともに、避難者の診療を実施した。人道危機発生直後は利用者が多く、1 日 500 ～ 1,000 人ほどがヘルプセンターを通過していた。同センター内にある、ハンガリーの医療団体であるメドスポットが運営する医療コンテナには、多いときでは 1 日 20 人程度利用していたが、月日が経つにつれ減少している状況であった。訴えとしては、頭痛や内服薬の不足、なかには治療が途中で避難してきた方もいた。現地医療者と協力しながら検査の実施や内服薬の手配、現地の病院への付き添いなど医療支援にあたった。

7 月 29 日より AMDA 看護師がメディカルチェックシートを用いて避難者への健康状態の聞き取りを開始した。医師不在時にすぐに診療が必要と判断した場合や薬の処方が必要である避難者に対しては、近隣の診療所へ付き添いを行った。またウクライナ国内避難中に爆撃等の被害があり、家の中で生活することを余儀なくされ活動量が減った避難者の多くは、下肢浮腫を認め深部静脈血栓症等の恐れがあった。AMDA 看護師は現地ボランティアとともにフットエクササイズポスターを作成、それを用いて避難者に説明し、一緒に実践した。

また、避難してくる多くは子ども連れの母親たちであった。母親は疲弊しているが、子どもの相手や次の行き先への手続き等があり休憩できない様子であった。そのためAMDAスタッフは母親に代わり子どもたちとボールやシール、遊具等で一緒に遊んだ。子どもたちは避難中に心の中に溜めたストレス等を発散し、遊んでいる間に母親は休めているようであった。

加えて、24時間避難者を支える現地ボランティアの方々の健康相談も受け、対応した。

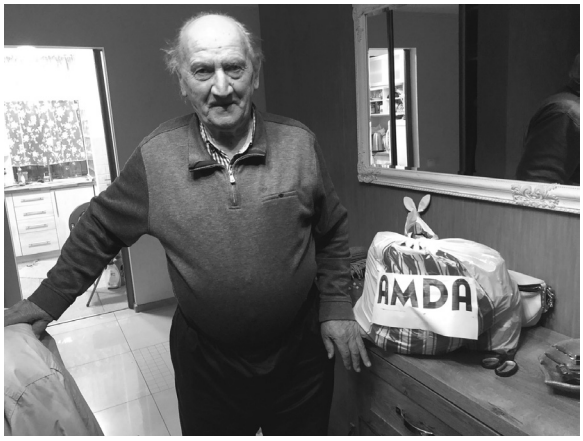
2）キシュバールダでの医療支援

キシュバールダでは現地協力団体であるヴァルダ伝統文化協会の協力を得て活動した。ヴァルダ伝統文化協会は、ウクライナからハンガリーに避難してきた方々がハンガリーと関係を深められるように、スポーツイベントや料理イベントを開催している。スポーツイベントでは、会場に設置している医療テントで待機し、現地医師やウクライナ人医師・看護師らとともに医療活動を行った。AMDA看護師は診療の補助や、熱中症予防にジュースや水を配布した。また、7月に実施した料理イベントでは、日本の方々がたくさんの想いを綴った法被を現地スタッフが着て、日本食を振舞った。イベント開催時は外気温が例年に比べて10度ほど高く熱中症の危険があったため、徳島県から寄付していただいたスポーツ飲料を配布し、熱中症予防に努めた。スポーツ飲料は現地医師やイベント参加者から好評であった。また、暑さで体調を崩すスタッフや避難者がいたため、ヴァルダ伝統文化協会に扇風機を3台寄贈した。

②ウクライナ国内への支援

1）ウクライナ国内の病院への支援

人道危機を受け、ウクライナ国内でのリハビリ施設が閉鎖し、セントミッシェル小児総合リハビリセンターに患者が集まった。AMDAはリハビリで使用する電気刺激装置の支援要請を受け、寄贈した。それと同時に、リハビリで使用するぬいぐるみなども支援した。また12月に入り、エアコン等の越冬対策の要請を受け、エアコン3台を寄贈した。加えてウクライナ国内では停電により、半日から長いときはほぼ一日、電気が使用できないとの情報を得て、ダイナスティメディカルセンターに発電機を寄贈した。



その他にもウクライナ国内の病院施設の家電製品やナイフ・フォークなどの備品が手配できないとの情報を受け、ハンガリーで物資を調達し、寄贈した。

2）ウクライナの国内避難者への支援

AMDAは、ヴァルダ伝統文化協会がウクライナへの物資運搬に使用する車両の一台がレンタカーであることを知った。長期化する事態を鑑み、4月8日、車両を一台寄贈した。また、靴の中で足が蒸れて水虫になる方が多くいるがウクライナ国内で薬剤が入手困難であるとの情報を得て、水虫薬をハンガリーで調達し寄贈した。更にヴァルダ伝統文化協会より、子どもたちへ安らぎと喜びを少しでも提供したいとクリスマスプレゼントの配布について相談があった。AMDAはそれに協力をし、ウクライナ国内で避難する子どもたちへクリスマスプレゼントを渡した。

ダイナスティメディカルセンターよりハルキウ周辺での食糧・物資支援の支援要請を受け、食糧や物資支援を行った。同団体より「本当に感謝している。」とメッセージをいただいた。

■トルコ地震被災者緊急支援活動

◇**実施場所**：　イスタンブール県、アンカラ県、アダナ県、カフラマンマラシュ県、アドゥヤマン県、マラティア県、エラズー県

◇**実施時期**：　2023 年 2 月 10 日～継続中

◇**派遣者**（派遣順）：　鈴記 好博 / 医師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー・坂本病院、菊池 友枝 / 看護師（日本資格）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、カルギ・カディール / 調整員 / 東京都在住トルコ人、榎田 倫道 / 看護師（日本・オランダ）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、米田 哲 / 医師（日本）/ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー

◇**現地協力者**：　ドュンダル・ハスカルファル / トルコ在住トルコ人

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：

AMDA 本部、トルコ医師会、アドゥヤマン医師会、イスタンブール医師会、そのほか現地ボランティア

◇**受益者数**：　健康相談 97 人、物資支援 150 世帯

◇**受益者の声**：

「来てくれてありがとう。」

「家やものはなんでもない。これは運命だから受け入れられる。しかし、人を失ったのはとてもつらい。」

◇**事業内容**：

現地時間 2023 年 2 月 6 日未明に、トルコ南部震源とするマグニチュード 7.8 の地震が発生した。2 月 24 日時点で、死者数 44,218 人、避難者数 528,146 人に上る。（AFAD：トルコ災害緊急事態対策庁発表）

こうした状況の中、AMDA はトルコ南部での緊急支援活動を開始した。2 月 11 日より派遣者 3 人（医師 1 人、看護師 1 人、調整員 1 人）をトルコへ派遣。その後、2 月 24 日から 27 日にかけて、派遣者 2 人（医師 1 人、看護師 1 人）をトルコへ派遣し、現地協力者とともに活動を行った。

2 月 13 日に初期活動において支援を受けた日本医師会の紹介によりトルコ医師会を訪問した。同会会長と面会し、義援金とともに、日本医師会会長松本吉郎氏からの手紙を手渡した。14 日には被災地の医療活動を担っているアダナ医師会を訪問し被害状況を伺った。トルコ南部のニーズ調査を行う中で、アドゥヤマン県が被災状況は甚大なものであるが支援が行き届いていないという情報を得て、アドゥヤマン県を中心として支援活動を開始した。

①物資支援

発災直後に避難され、防寒対策が不十分のまま急いで避難された方へは、冬靴や発熱性の肌着等を提供した。また、イスラム宗教を信仰している方も多く、女性にはヒジャブという顔を覆うスカーフを手配し、お渡しした。子どもたちへは、折り紙や髪飾り等を日本で調達し、学生インターンが可愛くラッピングをしたものを現地に持っていった。子どもたちは、折り紙などで楽しそうに遊んでいた。

また、子どもたちへの駄菓子を現地のお店に買いに行った際に、店主に避難中の子どもへのプレゼントであると伝えると、「ありがとう。」と、目に涙を浮かべておられた。そして、購入した代金はいらないと言ってくださった。今回の支援では、トルコ国内でこうしたおまけや値引き等の対応をしていただくことが何度かあった。

②健康相談

2 月 16 日、17 日と、ニーズ調査中に立ち寄った村で健康チェックを行った。また、2 月 19 日よりアドゥヤマン県内で実施している巡回診療に同行し、避難者の健康チェックを行った。持病の相談や、避難中に怪我をした方へ適宜対応

した。持病の薬が家にあるが、家が倒壊寸前であったり、被災状況を直視することができず家に取りに行くことができない避難者に対しては、AMDA チームが現地医師に依頼し薬を処方してもらい、薬剤を避難者へお渡しした。

普段であれば、何かあればすぐに病院に行ける状態だが、災害時はそれが困難である。現地で活動した AMDA 医師は「災害時は普段よりも精神的ストレスが強く、持病が悪化しやすい環境にある。悪化する前に健康チェックを行い、不安を取り除くとともに適切なアドバイスを行うことが重要である。」と語った。

■パキスタン洪水被災者支援活動

◇**実施場所：** イスラマバード、シンド州（カラチ及び被災地）
◇**実施期間：** 2022 年 9 月 20 日～ 12 月
◇**派遣者：** 池田 敬 / 調整員 / AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDA 本部、AMDA パキスタン支部、NRSP（National Rural Support Programme）、ハムダード財団
◇**受益者数：** 物資支援 725 世帯、医療支援 1,000 人
◇**事業内容：**

2022 年 6 月以降、モンスーンによる豪雨や北部山岳地帯の氷河溶解を受け、パキスタン国内では大規模な洪水が多発。8 月時点で死者数 1,486 人、負傷者 12,749 人、そして 176 万軒もの家屋が損壊するなど、深刻な被害となっていた。（パキスタン政府発表）

8 月より AMDA はパキスタン国内の協力団体と連絡をとり、派遣の可能性を視野に、被災状況や支援ニーズなど情報収集を実施。AMDA は調整員 1 人をパキスタンに派遣することを決定した。

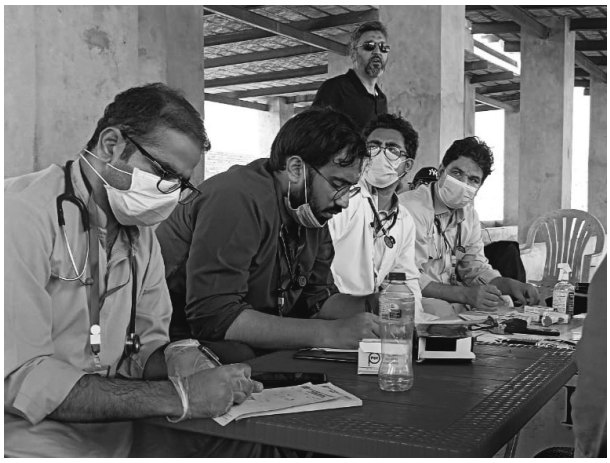
①シンド州ジャムショロ県にて食糧支援

9 月 23 日より現地協力団体ハムダード財団とともに被災状況や各団体の支援活動の様子を伺った。25 日、シンド州ジャムショロ県では至るところで水がひいていない地域が見られ、依然として避難所のテントや路上で暮らす被災者が多い状況。避難所等に避難せず、被災地域に残られている方々に対し、財団とともに現地で調達した小麦粉や米、砂糖、ダール豆、ひよこ豆、粉ミルク、お茶の葉を入れた袋を 225 世帯に提供した。

②シンド州タンド・アッラー・ヤール県にて蚊帳配布

9 月 26 日から 28 日より現地協力団体である NRSP の担当者とともに、シンド州タンド・アッラー・ヤール県とミルプルカス県の被災地を訪問した。タンド・アッラー・ヤール保健所や NRSP ミルプルカス県事務所の担当者と面会し、各県の被災状況に加え、マラリアなどの感染拡大の状況を伺った。そして、多くの家が洪水で流され、住人が道路わきにテントやビニールシートなどで簡易的な住まいを作り、雨風をしのいでいる状況にあった。26 日にタンド・アッラー・ヤール県のある村で被災された方々より蚊帳が必要と聞いた AMDA 調整員は、NRSP にご協力いただき、28 日に 150 世帯に蚊帳を提供した。

③シンド州モロ県、タッタ県、カロ県にて医療支援・物資支援



9月28日、AMDAパキスタン支部長を兼任されているバカイ財団のショアイブ・バカイ氏と面会。バカイ氏によると、被災地での主な疾患は下痢、真菌感染症、マラリア、肝炎、高血圧等が多いとのことであった。シンド州の被災地にて医師や看護師等の医療チームによる診療活動や、医療品やテント、食糧等の提供を2週間に1度実施しているという情報を得て、医療支援を決定した。10月から12月に3回に渡って緊急支援が行われた。医療支援では下痢や咳、眼に関する疾患等の治療にあたり、必要に応じて下痢止め、咳止めシロップ、目薬等を計1,000人超の患者に渡した。また、支援物資の配布に関しては、計200世帯余りに米、豆類、小麦粉、ティーバッグ、調理用油などの食糧品のほか、絆創膏や軟膏、抗生物質や衛生用品などが入った救急箱を配布した。

④シンド州タッタ県にて食糧支援

9月29日に同県に伺った際に、インダス川周辺に住んでいた住民の多くが川の氾濫により家を失ったという情報を得た。被災者がいた地域は幹線道路から数キロ離れており、食糧や医療サービス等の支援が行き届いていない様子であった。AMDAはハムダード財団とともに、現地調達した小麦や米、豆など入った食糧配給袋を150世帯に提供した。

■フィリピン台風22号(2022年)被災者緊急支援活動

◇**実施場所：**　ミンダナオ島サンボアンガ
◇**実施日：**　2022年11月13日～14日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
株式会社キッカワ（本社：岡山県倉敷市）ほか現地協力者
◇**受益者数：**　800世帯
◇**受益者の声**（現地で支援活動にあたられた方からのメッセージより）：
「私たちの故郷サンボアンガの街は台風の影響を受けました。家屋損壊の被害があり、ほとんどの地域が浸水しました。全員、そのような災害の備えがなく、川岸の住民の家のほとんどすべてが洪水で流されました。

私たちは、フィリピン人の皆が危機の時に必要な人々を助ける思いやりの心を持って、誰もこの危機で置き去りにされないと感じることができるように、被害に遭った個人、家族に何か分け与えることを計画しました。私たちは800以上の家族を特定し、食糧やその他の必要な日用品を平等に配給しました。

私たちがAMDAなどご支援いただいた団体からの寛大さと恩恵の賜物をお渡しする際、被災された方々の幸せで喜びに満ちた顔を実際に見ることができます。彼らは私たちにもそうですが、特に不屈のサポートと寛大さを持ったAMDAなどからのご協力に感謝しています。」

◇**事業内容：**

10月29日、大型の台風22号がフィリピン・カタンドゥアネス島に上陸、翌日にかけ西に向かって複数の島を横断した。各地で洪水が相次ぎ、フィリピン全体で死者数164人、負傷者数270人、行方不明者数28人、約147万世帯が被災、一時期80万世帯が避難した（11月19日 フィリピン国家災害リスク削減管理委員会 発表）。

AMDAは29日、AMDAフィリピン支部や現地協力団体などと連絡をとり、情報収集を開始。そして11月13日から2日間、株式会社キッカワと合同で、大規模な洪水被害にあったミンダナオ島サンボアンガで被災された家族に食糧などを支援した。当初、米や乾麺、イワシやコーンビーフの缶詰、コーヒー・ジュースのセットを500世帯に提供する予定だったが、予想以上に支援を求める家族が多く、2日間で約800世帯に支援した。加えて、毛布や下着、衣類なども配布した。

■インドネシア・ジャワ島地震被災者緊急支援活動

◇**実施場所：** ジャワ島チアンジュール県トゥンギリス村、パシルチナ村、チャリウ村
◇**実施日：** 2022年11月25日～27日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDAインドネシア支部・チアウィ総合病院合同医療チーム19人（医師5人、看護師7人、薬剤師1人、診療放射線技師2人、調整員4人）
◇**受益者数：** 医療支援700人、物資支援約20世帯
◇**事業内容：**

現地時間11月21日午後、インドネシア・ジャワ島西部にてマグニチュード5.6の地震が発生。インドネシア国家防災庁(BNPB)によると、死者数272人、負傷者数2,061人、行方不明者数39人、そして約6万以上の人が避難した。また、約57,000軒もの家屋が半損壊した（11月25日発表）。

この深刻な被害状況を受け、スラウェシ島マカッサルにあるAMDAインドネシア支部のアンディ・フスニ・タンラ支部長（ハッサヌディン大学名誉教授）はAMDA本部に支援を要請。11月25日、自身の教え子である西ジャワ州ボゴール(Bogor)の麻酔科医を中心とした医療者たちをAMDAインドネシア支部医療チームとして、被災地であるチアンジュール県に派遣した。

25日から2日間は、支援が行き届いていなかったトゥンギリス村とパシルチナ村へ向かった。チームは途中で車両を駐車後、避難テントが集まる避難所を目指し、雨でぬかるんだ道を歩いた。避難所に到着後、被災した方々の診療を開始した。

一つの避難場所に複数のテントが設置されている集落がある一方、まともなテントすらないところもあった。また、雨によりテントの基礎部分が濡れ、老若男女が健康状態の良し悪しにかかわらず、大人数で一つのテントに身を寄せている様子もみられた。医療チームはテントを直接訪れ、計700人の健康状態を聞いて回った。多く見られた症状は、疼痛や発熱、下痢、呼吸器系疾患、不眠症など。必要に応じて処置や医薬品の処方などを行った。

27日はチャリウ村を訪れ、インスタントラーメンや牛乳といった食料、石鹸や歯ブラシなどの日用品、そして毛布などを被災した人々に届けた。

2　災害支援事業　―復興支援活動―

■東日本大震災復興支援活動

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

①復興グルメ F-1 大会

◇実施場所：　宮崎県気仙沼市　南町紫神社前商店街

◇実施時期：　通年

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

復興グルメ F-1 大会運営事務局実行委員長　坂本 正人、菅原 尚美

◇受益者数：　1,130 人

◇受益者の声：

「来られた方のなかにはお米を受け取る時『えっいいの？』と、驚かれる方もいた。回を重ねるごとに人数も増え、コロナ禍に加え物価高騰で生活が大変な方がいることを改めて実感した。」

◇事業内容：

「復興グルメ F-1 大会」は 2020 年以降コロナウイルス感染症まん延防止のため、休止中。

一方で、これまで数回行っていた食糧支援の継続を石巻のボランティアの方と決定し、『コロナ支援物資配布』と、様々なイベントを定期的に開催している。4 月に行った支援会には今までにないくらいの人が訪れ、長いコロナ禍を実感した。そしてゴールデンウィークには親子で楽しめるイベントを行った。

また、9 月には大阪府立桜塚高校の生徒たち 15 人が修学旅行の一環として東日本大震災の話、復興の過程を聞き取りに来た。

11 月には『5th Anniversary ライブ !!』と『手筒花火』、12 月に cadocco（南町紫神社前商店街内集会所）にて AMDA 写真パネル展示、1 月に『2023 南町紫神社前商店街初売りイベント』を行った。

②仙台市震災ホームレス支援

◇実施場所：　宮城県仙台市

◇実施時期：　2013 年～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

NPO 法人仙台夜まわりグループ

◇受益者数：　延べ人数 1,200 人

◇事業内容：

週 4 日定例活動を継続しており、主に食事提供とシャワー・洗濯と乾燥機の利用を提供している。独居高齢男性も多く、コロナ禍以降、若者たちの参加も目立つ。早朝の有償清掃ボランティア活動に参加した方に少額であるが賃金を支払っている。食事会と自立支援セミナーを開催した。AMDA から寄贈したグンゼの肌着は必要不可欠なものであり、更に AMDA から提供した大きなリュックは、荷物がたくさん入ると路上生活者に好評であった。

③ AMDA 大槌健康サポートセンター事業

◇**実施場所：**　岩手県上閉伊郡大槌町

◇**実施期間：**　2011 年 3 月 12 日～継続中

◇**従事者：**　佐々木 賀奈子 / AMDA 大槌健康サポートセンター長、教室事業講師 2 人

◇**受益者数**（2022 年度）：　延べ人数教室事業 439 人、鍼灸 408 人

◇**受益者の声：**

「健康セミナーでは自分でできるツボを教えてもらい肩関節、腰痛が楽になった。」

「木工、さをり織りの教室の作品作りは、みんなとアイデアを出し合う楽しさがある。」

◇**事業内容：**

2011 年 12 月に設置された AMDA 大槌健康サポートセンターのユニット式建物は、震災後地域の復興に伴い、建物を仮の場所に移転し、活動は町内のアパートを借りて継続してきた。ユニット式建物は、大槌町で東日本復興事業として、地域の人々の健康、コミュニティ、生活に寄与する目的で「おやちゃい組合」に譲渡することを 2018 年に決定。長い期間を要し大槌町内に設置する準備が整った 5 年後の 2022 年秋に仮の場所から移設、リフォームして 2022 年 12 月 4 日にリニューアルオープンした。今後、AMDA 東日本復興支援事業は、佐々木賀奈子センター長に委託し、リフォームしたユニット式建物を活用して継続していく。これまでの支援者の思いの詰まったユニット式建物は深い意義のあるものとなる。2022 年度はコロナ感染増大の影響で、教室事業は回数を制限し、体笑教室、健康セミナーはオンラインで開催した。

④復興グルメ F-1 大会開催先訪問

◇**訪問場所：**　宮城県気仙沼南町紫神社前商店街、岩手県陸前高田市、宮城県南三陸町

◇**訪問期間：**　2022 年 12 月 1 日～ 3 日

◇**参加者：**　ボランティア 2 人、AMDA 職員 2 人

◇**受益者の声**（岡山から参加したボランティアの声）：

「久々に訪れた東北の被災地。町の様子は変化していましたがお会いした皆さんの笑顔は変わらず、それがとても嬉しかったです。支援する側、される側ではなく、災害大国で同じ時代を生きる仲間、大切な友人として、このご縁が末永く続くことを願っています。」

「3 年ぶりに気仙沼、陸前高田、南三陸町に行き、復興の現状を垣間見ました。防潮堤、道路、記念館等々ハード面の復興は進んでいたが、人口減、住民の高齢化、各種支援金の終了等々厳しい現状を伺いました。微力だが、できる支援は続けていきたいと再認識しました。」

◇**事業内容：**

12 月 1 日～ 3 日まで復興グルメ F-1 大会の関係先を訪問し、復興グルメ F-1 大会と被災地間交流について意見交換を行い各地の復興の様子を視察した。

1）宮城県気仙沼南町紫神社前商店街

気仙沼南町紫神社前商店街事務局 AMDA 参与坂本正人さん、菅原尚美さんの案内で市内を視察。強化ガラス窓付きの防波堤や復興住宅を見ながら、震災当時避難する車で渋滞した箇所が拡張された安全な避難経路を通った。市内の北側にある安波山（あんばさん）の復興祈念公園から市内を一望し、当時の津波被害について話を伺った。三陸新報新聞社の取材で坂本さんは、復興グルメ F-1 大会や、東日本の震災の教訓を今後の大規模災害に生かした防災を通じての商店街との連携強化について語った。

岡山から参加されたボランティアの方々とともに、気仙沼南町紫神社前商店街の地域で生活支援家庭を対象にした米 100 袋の物資支援の仕分け作業をした。

2）岩手県陸前高田市

「たまご村」復興商店街の太田昭成さんから最近の様子や復興グルメ F-1 大会の意見交換を行った。奇跡の一本松と「いわて TSUNAMI メモリアル」を見学し、被災当時のままの消防車、被災映像、震災の歴史から今後の教訓と後世に伝えていくことの大切なメッセージとして感じた。

3）宮城県南三陸町

南三陸さんさん商店街「マルセン」三浦洋昭社長を訪問し復興グルメ F-1 大会と被災地間交流について意見交換した。また、佐藤仁　南三陸町長を表敬訪問し復興の様子を伺った。「南三陸 311 メモリアル」では震災の記録パネルや 2 階デッキから震災当時の鉄骨の旧防災対策庁舎を見学した。

■ハイチ・2021 年地震復興支援スポーツプロジェクト

◇開催場所：　ボモン市

◇開催日：　2022 年 8 月 13 日～ 14 日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ハイチ支部、ボモン市

◇受益者数：　児童 45 人

◇受益者の声：

「震災で悲しい思いをしたが、今日は素晴らしい一日になった。他の地域でもこのイベントを開催してほしい。」

◇事業内容：

2021 年 8 月にハイチ西部を襲った大地震。その復興支援の一環として、AMDA はこれまで支援してきたボモン市と合同で、子どもたちを対象としたサッカー交流を実施した。『ボモン市震災一周年記念スポーツプロジェクト』と題して 2 日間に渡って行われたこの催しは、それぞれの被災地域から 3 チーム（総勢 45 人）の子どもたちが参加。地震が発生した 8 月 14 日には、審判やスタッフを含む関係者全員で市内を行進し、試合前には、犠牲者を追悼して五分間の黙とうが捧げられた。

地震発生当初より、AMDA では、AMDA ハイチ支部が中心となり、医療および物資支援を実施。その後もボモン市長からの要請を受け、日本人調整員の派遣を含む計 4 回の支援を行っている。

■ハイチ・国内避難民キャンプ医療支援活動

◇**実施場所：**　ポルトープランス市デルマ地区
◇**実施日：**　2022 年 12 月 28 日、31 日、2023 年 1 月 3 日、7 日（計 4 回）
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDA ハイチ支部 6 人、避難民キャンプ運営者 2 人
◇**受益数数：**　399 人
◇**受益者の声：**
「このような支援を受けるのは初めて。毎月行ってほしい。」
◇**事業内容：**

2010 年の大地震以降、ハイチでは、長引く政情不安に加え、度重なる災害やギャング抗争等により、社会不安が深刻化。市民が安全を求めて国内の避難民キャンプに身を寄せる一方、海外の支援団体の多くは、治安の悪化に伴い、ハイチ国内での活動を見合わせている。こうした状況の中、AMDA ハイチ支部は、2022 年 12 月末から年明けにかけて、首都ポルトープランスにある避難民キャンプで医療支援活動を実施。デルマ地区のキャンプを 4 回に渡って訪問し、計 399 人を診察した。医薬品の提供に加え、子どもたちには食べ物や飲み物を配布。近隣に病院もなく、薬を買うお金もない中で、住民たちからは、「このような支援はあなた方が初めて。」と喜ばれた。キャンプには浴室はおろかトイレすらなく、生活環境は劣悪を極める。住民たちからは、「こうした支援を毎月行ってほしい。」という要望が聞かれた。

■ハイチ・第 12 回歯科プロジェクト

◇**実施場所：**　フォンデ・ネグレ
◇**実施日：**　2023 年 3 月 4 日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDA ハイチ支部長およびスタッフ 7 人
◇**受益数数：**　72 人
◇**受益者の声：**
「このプロジェクトをハイチ全土で行ってほしい。」
◇**事業内容：**

2023 年 3 月 4 日、ハイチ中部の都市フォンデ・ネグレにおいて、AMDA ハイチ支部が 12 回目となる歯科プロジェクトを実施。会場となった救世軍の病院『Bethel Clinic』には、市内をはじめ、歯科医のいない周辺地域から計 72 人の患者が集まった。例年を上回る盛況の中、歯科治療に加え、血圧測定や体温測定なども行われた。「人生で初めて歯医者に来た。」と語った男性患者のように、患者の中にはこれまで一度も歯科を受診したことがないケースは珍しくない。歯科医で AMDA ハイチ支部長を務めるフレデリック医師によれば、遠隔地には歯に問題を抱えた人が大勢おり、このプロジェクトを各地で行ってほしいという声が高まっているという。

3　南海トラフ災害対応プラットフォーム

■ AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

概要

◇**実施場所：**　岡山県、香川県、徳島県、高知県

◇**実施時期：**　通年実施

◇**事業内容：**

AMDA では、発生すれば死者 30 万人、300 万人が被災するとも言われる南海トラフ巨大地震への取り組みとして、「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」を 2015 年に設立。巨大地震が発生した場合に、孤立しやすい四国の徳島県・高知県に 10 チームが迅速に支援活動を行えるよう、自治体、医療機関、企業などが一体となり準備を進めている。連携協定を結ぶ自治体や医療機関、経済団体と緊密に連携し、

①食糧などの事前備蓄　当初の備蓄品のローテーションと合わせて備蓄品の見直し

②支援に駆けつける医療機関と支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流、訓練を通じての交流

などを実施。

2022 年度も、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況が続き多くのイベントや訓練などで人が集まることが延期や中止となったが、コロナ対策を行いながら開催された、高知県黒潮町、高知市、徳島県阿南市、岡山県総社市、各地での訓練に参加した。また、AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関の一つである倉敷中央病院が主催する勉強会などにも参加した。

高知県黒潮町

徳島県阿南市

岡山県総社市

【訪問先】

日程	訪問先　＊敬称略
	新型コロナ感染拡大防止のため、中止

【訓練】

日程	訓練名	活動内容
9/4	高知県黒潮町主催 「黒潮町総合防災訓練」	当日の雨天とコロナ禍により町民一斉の訓練は中止となったが、佐賀地区の保健所での避難所開設訓練が実施され見学者として参加した。 【参加者】 AMDA 本部（2 人）
11/13	高知県高知市主催 「高知市防災訓練」	AMDA に加え、災害医療機動チームとして「NPO 法人あゆみ：すなば珈琲」が参加。 ＊詳細は「災害医療起動チーム」の項目参照。
11/27	徳島県阿南市主催 「令和 4 年度四国の右下防災旬間関連事業（阿南市参加課目）」	2021 年に引続き、訓練前日に諏訪中央病院が長野県から阿南市まで移動する道中を J-SPEED を使いルート情報等の報告訓練を行い、訓練当日の患者情報を J-SPEED に入力した。岡山からは、倉敷中央病院から同時に J-SPEED 入力を行い、阿南市に入っていた本部職員が、複数の情報を確認・分析した。 【訓練参加者】AMDA 本部（2 人）、AMDA 兵庫 (1 人)、ホウエツ病院 (4 人)、諏訪中央病院 (5 人）

2/5	岡山県総社市主催 「令和 4 年度総社市防災訓練」	「AMDA 活動のパネル展示」で避難所や被災地域のパネルを展示。 【参加者】 AMDA 本部（1 人）

【勉強会など】

①倉敷中央病院の勉強会に参加

AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォームに参加されている倉敷中央病院内の FMS・防災対策委員会が主催する勉強会に 2021 年度より AMDA も参加。倉敷中央病院は、同プラットフォームでは徳島県美波町とマッチングされているが、徳島県内とマッチングされている他の医療機関とのつながりも重要であり、平時から連携した関係構築を広げられるようにと、AMDA より該当機関に案内を送った。この勉強会は、徳島県に支援に入る医療機関との連携交流の場にもなった。

日程	活動内容
5/17	「J-SPEED ＋」の紹介
7/14	講演 1. 災害支援ナース～災害現場を経験して～ 講演 2. JRAT ～災害リハビリテーションの概要～
9/8	保健医療福祉調整本部について

②その他

日程	名称	活動内容
6/20	徳島県西部災害医療 Web セミナーに参加	医療法人芳越会 ホウエツ病院の林秀樹理事長からの紹介で AMDA 本部職員 1 人がオンライン参加した。 講演 1. 電子カルテがランサムウェア感染し災害モードになった病院の対応 講演 2. みんなで取り組む災害医療～コロナ禍を経て～
7/19	高知県主催 「南海トラフ地震防災対策について、高知県、高知市、須崎市、黒潮町との協定書に基づき南海トラフ地震防災対策協議会」参加	コロナ禍のため、オンラインでの開催。 AMDA から活動の報告と県市町からの報告等を行う。

4　世界災害医療プラットフォーム：アジア・大洋州版

■台湾訪問

◇**実施場所：**　台北

◇**実施時期：**　2023 年 2 月 26 日～ 3 月 3 日

◇**協力者・参加者数：**　47 人

◇**派遣者：** 難波 妙 / AMDA 理事

◇**事業内容：**

AMDA は、元台湾医師会会長の呉運東先生のご尽力により、台湾保健省の国際活動部門『台湾 IHA』（Taiwan International Health Action）と 2009 年に協力協定を締結。この協定の下、これまで AMDA は、台湾 IHA とともにインドネシア、スリランカ、トルコ、インドで、白内障手術、口唇口蓋裂手術等、8 回 の医療技術支援事業を実施。またネパールの AMDA ダマック病院では、下部内視鏡スコープの提供も受けている。今回は、台湾 IHA との更なる関係強化のため、呉運東先生のご教示の下、台北で関係者

とミーティングを実施。台湾 IHA は、これまでの AMDA との共同事業の実績を活かし、保健衛生分野での事業展開を継続することに同意。その一環として、ネパールにある AMDA ダマック病院の内視鏡技術移転事業に関し、再度、協力を検討するとの回答を得た。更に、多発する自然災害に対応した『世界災害医療プラットフォーム構想』についても共有。今後の災害対応について幅広いネットワークを活かした相互協力を行っていくことを確認した。

また、AMDA 台湾支部支部長である張朝凱先生（眼科医）と関係者 40 人とのミーティングにおいても、前述の『世界災害医療プラットフォーム構想』について説明。今後、これに即対応するために、AMDA 台湾支部が独自で、災害医療を中心とした医師による団体の立ち上げを目指す。

5　災害医療機動チーム

■ AMDA 災害医療機動チーム

◇**実施場所：**　高知県高知市
◇**実施時期：**　通年実施
◇**事業内容：**

災害が起きた際、活動場所や活動敷材、そして医療チームの宿泊や食事などのロジスティック面の確保が、医療チームの大きな課題の 1 つとなっている。それらを解決し適切な支援を被災地へ届けるために、様々な企業や団体からなる「AMDA 災害医療機動チーム」を 2019 年に発足。各協力企業・団体から移動診療車や移動調剤車、宿舎や炊き出しチーム、材料の冷凍車、電源車、給水車、ごみ収集車など様々な車両や物資、人員が現地に向かい、医療チームと共に被災地の支援に当たる。各協力企業や団体と、より迅速で適切な支援開始を目指し、調整を進めている。

【今年度活動内容】

日程	活動名	活動内容
11/13	高知県高知市主催 「高知市防災訓練」参加	【派遣者】 AMDA1 人 【活動内容】 高知市の防災訓練で災害医療機動チームの「NPO 法人あゆみ：すなば珈琲」からキッチンカーで参加、珈琲の提供を頂いた。当日が雨天で人の移動が無く、受益者数は少なかった。

6　その他

■ AMDA･JA 岡山 緊急時物資支援センター みつ STATION　開所式

◇**開催場所：**　AMDA･JA 岡山 緊急時物資支援センター みつ STATION
◇**開催日：**　2022 年 10 月 14 日
◇**主な参加者・団体**（敬称略）：
元御津町長：　安信 治雄
岡山市農業協同組合：　経営管理委員会会長 / 宮武 博
代表理事理事長 / 岡 信明
常務理事 / 太田 誠一
広報担当 / 久山 隆一
特定非営利活動法人 AMDA：　理事長 / 菅波 茂
南海トラフ担当 / 大西 彰　他スタッフ 2 人

ソーデン社：　　社長代理 / 武元 義和
智商ロジスティクス：　社長 / 河合 智哉
◇**参加者数：**　地域の方々、約 30 人
◇**事業内容：**
AMDA は、2015 年より「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」を立ち上げ、多くの自治体や医療機関、更に様々な企業と協力し、南海トラフ地震・津波が発生した場合にはできる限り迅速に、必要な医療支援などを行えるよう事前に準備を進めている。これまで派遣医療チームの食料や支援物資の保管計画を準備していたが、新たに岡山市農業協同組合 (JA 岡山）様にご協力いただき、2022 年 10 月、「緊急時物資支援センター　みつ STATION」を開設した。
今後、「みつ STATION」は、派遣医療チームの食料の一時的保管やお預かりした支援物資の保存など様々な形で使用する予定。

■ 写真展「写真で語るウクライナ避難者支援」、岡山市と大阪府堺市にて開催

①岡山市
◇**開催場所：**　岡山県生涯学習センター
◇**開催日：**　2022 年 8 月 19 日～ 21 日
◇**主催側参加チーム構成：**
大学生有志、岡山県立大学大学院生、AMDA 中学高校生会、AMDA 本部
◇**来場者数：**　115 人
◇**受益者の声**（ご来場いただいた方々のメッセージより）：
「写真展でウクライナの方々に起きていることを知ることができた。」
「一日も早く笑顔と日常が戻ってきますように。」
◇**事業内容：**

AMDA は 2022 年 3 月よりハンガリーを拠点に、「ウクライナ避難者支援活動（2023 年 1 月より「ウクライナ人道支援活動」に名称変更）」を行っている。2022 年 10 月まで AMDA より派遣された医師、看護師、調整員が、活動報告とともに現地で撮影した写真を毎日送ってくれた。活動の写真だけでなく、活動にかかわる多くの「人たち」の写真が送られてくる。なるべく多くの方々に見ていただきたいと、同年 8 月、AMDA 本部のある岡山市内で写真展を開催した。
写真展では、写真 42 枚とともに、派遣者から伺った写真にまつわるエピソードを一緒に展示した。加えて、避難してきたウクライナの方々が派遣者に「ウクライナは美しい。平和になったら是非来てほしい。」と話されたと伺い、人道危機前のウクライナの風景の写真をお預かりした。美しい街並みや自然といった景色、そして今は会えないという家族や友人との写真なども、この写真展で展示した。
また、ハンガリー・ベレグスラーニーのヘルプセンターにて、ウクライナの子どもたちが絵を描いた布を日本に持ち帰った。今度は、写真展に来場した子どもたちがその布に「平和」をテーマに絵を描いた。写真展が終わるころには、白い長い布に、子どもたちが描いたウクライナや日本の旗、そのほか思い思いの絵であふれていた。
ご来場いただいた方々に、帰られる前に、写真展の感想や自身が感じた思いなどメッセージカードに書いていただいた。この写真展で避難されたウクライナの方々の現状を知ることができたという方、そして一日も早い平和への願いを書かれている方も少なくなかった。
尚、この写真展は主に大学生有志が中心となって準備を進め、AMDA 中学高校生会が写真と一緒に展示するエピソード作りを手伝った。更に写真展当日は、岡山県立大学大学院生及び AMDA 中学高校生会も一緒に設営・運営していただいた。

②大阪府堺市

◇**開催場所：**　コクリコさかい「堺市立男女共同参画センター」
◇**開催日：**　2022 年 12 月 2 日～ 4 日
◇**協力：**　堺 自由の泉大学
◇**後援：**　浄土宗 正明寺（堺市堺区）
◇**主催側参加チーム構成：**　大学生有志、ボランティア、AMDA 本部
◇**来場者数：**　252 人
◇**受益者の声**（ご来場いただいた方々のメッセージより）：
「支援したいけど、どうやって支援していいかわからなかった。」
「大阪での開催だったから来れた。」
◇**事業内容：**

8 月の岡山に続き、12 月には大阪府堺市にて、堺 自由の泉大学様のご協力、そして浄土宗 正明寺様よりご後援をいただき、写真展「写真で語るウクライナ避難者支援」を開催した。

この写真展では、前述の岡山市での写真展で展示した写真・エピソードに、直近の活動写真などを加えた合計 50 点を展示。そして、ウクライナと日本の子どもたちが描いた絵、ウクライナ避難者からお預かりした人道危機前の美しい風景や今は会えない方々との写真も、同じ会場に飾った。

実質 2 日間の会期となったが、今回ご協力いただいた堺 自由の泉大学受講生含む 252 人が写真展に来場された。岡山市での開催同様、帰る前に来場者に思ったことを何でもメッセージカードに書いていただきたいとお願いした。「まだウクライナでは危機が続いていることを実感した。」「現地での支援の様子がよくわかりました。」という声、そして「一日も早く皆さんが祖国に戻り、心から笑える日が来るよう祈っている。」といった平和への祈りの声を多くお預かりした。

また、12 月 3 日には、AMDA 理事が同会場にて講演を行った。天災はやめられないが人災はやめられること、ウクライナの子どもたちが戦争を知る世代となったことに対して、大人は今後どう伝えていくのか、そして AMDA と一緒に国籍を問わずウクライナの避難者を支える方々の話など、自身が 2 度、ハンガリーでの支援活動で感じた経験を踏まえ、話をした。「日本の平和の中にて、本当の大変さや苦しさを実感できてなかった。」などの感想もいただいた。

今回の写真展も前回同様、大学生有志が中心となって準備を行い、当日は関西地区在住のボランティアの方々に設営や運営などに携わっていただいた。

AMDA は更に多くの方にご覧いただきたく、別の機会も検討していけたらと考えている。

■その他

日程	プロジェクト	受益者数（2022 年度）	活動内容
2022 年 12 月 ～ 2023 年 1 月	大使館訪問	駐日外国公館など 14 公館 2 関係機関 3 関係者	【活動内容】 AMDA は、2012 年より毎年、AMDA の活動地域である国と地域の公館および関係機関、関係者を表敬訪問し、1 年間の活動報告とともに、感謝の意として岡山県新庄村の有機米を贈呈。 2022 年度はウクライナ避難者人道支援活動でご協力いただいた駐日ハンガリー大使館、パラノビチ大使閣下を表敬訪問し、ウクライナ避難者支援活動報告とともに、初めて新庄村の有機米を贈った。
2022 年 12 月 23 日	出版 「見放さない！その命　ウクライナ人道支援日誌～世界大動乱（大恐慌）を乗り越える～」	発行部数 : 2,500 冊 	【活動内容】 2022 年 3 月より 10 月までハンガリーに派遣した時のウクライナ人道支援活動について、医療者、調整員等の派遣者から届いた現場からの最前線リポートを編纂。加えて、派遣者、関係者、支援者、ハンガリー、ウクライナ国内の機関等からのメッセージに加えウクライナの風景や活動写真も収録。また、世界大動乱を乗り越えると題して、菅波代表のこれからの世界経済と潮流についての評論も掲載。岡山県内の公立の教育機関、図書館等に寄贈。

健康増進

プライマリーヘルスケア事業

インド・AMDA ピースクリニック

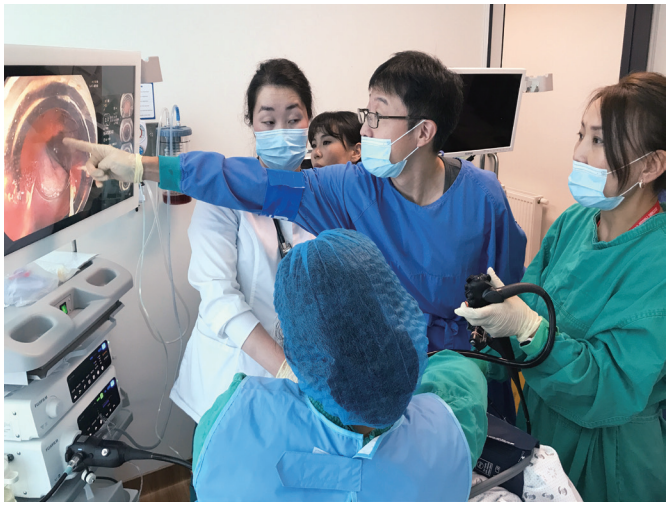
妊婦検診

栄養指導

カンボジア・リプロダクティブヘルス／ライツに関するワークショップ

医療技術移転事業

日本モンゴル教育病院内視鏡技術研修



モンゴル救命救急研修

ネパール内視鏡技術研修事業

1　プライマリーヘルスケア事業

■インド・ブッダガヤ AMDA ピースクリニック母子保健事業

◇**実施場所：**　ビハール州ブッダガヤ
◇**実施時期：**　2009 年 11 月～継続中
◇**派遣者**（2022 年度）：　菅波 茂 / 医師 / AMDA インターナショナル代表、アルチャナ ジョシ / 調整員 / AMDA 職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDA ピースクリニック（以下 APC）、AMDA 本部
◇**受益者数**（2022 年度）：　延べ 1,636 人（妊婦健診 228 人、家庭訪問約 600 人、栄養指導 808 人）
◇**受益者の声：**
「妊婦中に気を付けないといけないことを詳しく教えてくれるので、とても安心できる。」
◇**事業内容：**
2021 年度はインドでも新型コロナウイルス感染が拡大に伴い AMDA ピースクリニック（APC）がそれまで実施していた妊婦健診や妊産婦の家庭訪問、栄養指導は一時期、休止を余儀なくされた。しかし更なる失業者急増の状況を受け、APC を利用する妊産婦を対象に毎月 1 ～ 2 回の食糧支援を行った。

2022 年 4 月から新型コロナウイルス感染拡大防止の規制も緩和され、APC はこれまで実施してきた食糧支援を終了し、地元の産婦人科による月 2 回の妊婦健診、家庭訪問と栄養指導を再開した。医療スタッフが 1 日 1~5 世帯の妊産婦の家庭を訪れ、抱える問題を詳しく聞き取り、健康や精神的な問題についてアドバイスや個別指導を行っている。APC の産婦人科医は安心して出産するため、妊娠中に超音波検査を受けるよう勧めている。経済的に貧しいことや家族の理解を得られず検査を受けようとしない妊婦については、検査費の一部を負担することも APC は行っている。

また、週に一回実施している栄養指導では、妊産婦に栄養価の高い珍しい果物を提供したり、料理を配ったりしている。この指導を受けた妊婦は、「家で手軽に食べられる栄養食材を教えていただいた。体にいいものをたくさん食べて、元気な赤ちゃんを産みたい。」と話した。

■カンボジア・青少年のリプロダクティブヘルス／ライツに関するワークショップ

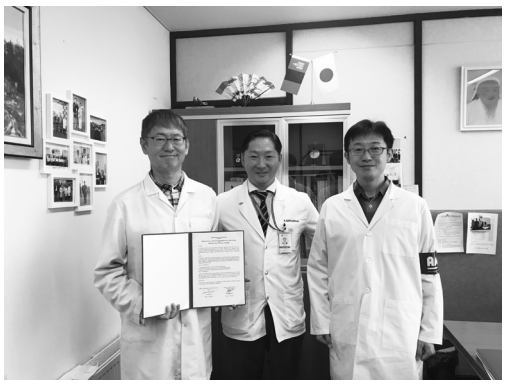
◇**開催場所：**　プノンペン市
◇**開催日：**　2022 年 12 月 5 日、10 日
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
AMDA カンボジア支部、チェンラ大学、株式会社山一観光
◇**参加者数：**　135 人（2 日間合計）
◇**事業内容：**
2022 年 12 月 5 日および 10 日、AMDA カンボジア支部は青少年のリプロダクティブヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）に関するワークショップを現地チェンラ大学と共同で行った。第 1 回目のワークショップでは、子宮頸がんをテーマとして扱い、病院や大学等から専門家や学者を多く招き、この病気がもたらす社会的影響について話を聞いた。第 2 回目のワークショップでは、『生殖に関する健康と権利、そして未来』と題した講義を行い、若者が享受すべ

きリプロダクティブライツ、とりわけ地方の女性たちを取り巻く生殖に関する権利について、有識者が現状を説明した。

また、これまでHIVやエイズ予防に関する啓蒙活動を一貫して行ってきたAMDAカンボジア支部は、パンフレットや冊子を、学生ボランティアを通じて地方の若い世代に配布している。尚、チェンラ大学との連携は近年多岐に渡り、これまでコロナ禍に対応するためのワークショップを実施したほか、AMDAカンボジア支部から感染予防用のマスクや消毒液なども寄付している。

2　医療技術移転事業

■日本モンゴル教育病院内視鏡技術研修



◇**実施場所：**　ウランバートル・日本モンゴル教育病院
◇**実施期間：**　2022年9月19日～24日
◇**派遣者：**　佐藤 拓史 / 医師 / AMDA理事、白井 保之 / 医師 / 小倉記念病院消化器内科主任部長、難波 妙 / 調整員 / AMDA理事
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
日本モンゴル教育病院消化器内科内視鏡室医師、AMDAインターナショナル参与 ニンジン ギリヤセド、AMDA本部
◇**受益者数：**　20人（医師）
◇**受益者の声：**
「コロナ禍で内視鏡研修が中断していた間に、日本モンゴル教育病院が本格的に稼働しはじめた。今回は、これまでの佐藤医師に加え、新しく白井医師をむかえて更に専門的な研修ができ、多くの内視鏡患者への診断と治療技術が向上した。」
◇**事業内容：**
AMDAは、2010年に締結したモンゴル国立医科大学との協力協定に基づき、2017年から2019年まで毎年、佐藤拓史医師（AMDA理事）が同大学病院で内視鏡技術研修を行ってきた。また、この間には、岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業の海外技術研修員として、同病院から2人の内視鏡医が岡山済生会総合病院で医療研修を受けている。

AMDAの内視鏡研修はコロナ禍で中断を余儀なくされていたが、2022年9月、3年ぶりに再開された。佐藤医師に加え、小倉記念病院消化器内科主任部長、白井保之医師も参加した。尚、今回は、2019年に日本政府が総額約80億円の無償資金協力にて建設、完成した日本モンゴル教育病院にて、食道胃静脈瘤や早期大腸がんの治療等を中心とした実践指導を行った。

まず最初に、佐藤医師と白井医師は、モンゴルの内視鏡チームと上部下部消化管内視鏡（胃カメラ / 大腸カメラ）についての実践とお互いの診断治療方針のディスカッションを行った。その後、白井医師は、大腸腫瘍の超音波内視鏡の診断や日本で行っている内視鏡的粘膜切除術のテクニックのポイントを伝え、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の講義を英語で行った。佐藤医師は、初期研修医に対して、日本から持参した大腸カメラのシミュレータを使い基本的なトレーニングを実施した。今回、モンゴルで研修を行った処置は以下の通り。

・内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL：Endoscopic variceal ligation）
・内視鏡的粘膜切除術（EMR：Endoscopic mucosal resection）
・超音波内視鏡（EUS：Endoscopic ultrasound)
・内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD：Endoscopic submucosal disection)
・下部消化管内視鏡（Colonoscopy)

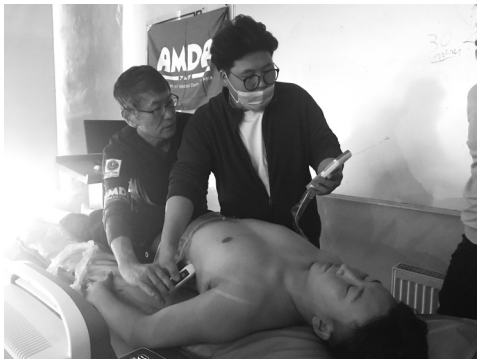
今後は、
・食道胃静脈瘤の治療として内視鏡的静脈瘤硬化療法（EIS：Endoscopic injection sclerotherapy）、EISL（EIS with Ligation）の導入を目指していきたい。

また、この研修期間中に、AMDA は日本モンゴル教育病院とも協力協定を結んだ。同病院長である Mendjargal Adilsaikhan 医師と佐藤医師、白井医師は、今回の研修が医療技術交流における今後の協力関係の発展に繋がると期待を寄せた。

今回の活動を終えるにあたって、佐藤拓史医師、白井保之医師、AMDA インターナショナル参与 ニンジン ギリヤセド、AMDA 理事難波妙は、在モンゴル日本国大使館小林弘之特命全権大使を表敬訪問した。伊東貴雄参事官兼医務官にもご同席いただき、モンゴルの医師の多くが熱意をもって真剣に研修に参加され、患者さんの治療に共に向き合って研修した内容を詳しく説明し、日本から導入されている医療資材の現状についても報告した。そして、モンゴルの医療の更なる発展を期待して来年も継続して研修を行うことをお伝えした。

■モンゴル救命救急研修

◇**実施場所**：　ウランバートル・ウランバートルエマージェンシーサービス（通称 103）
◇**実施時期**：　2022 年 9 月 26 日～ 27 日
◇**派遣者**：佐藤 拓史 / 医師 / AMDA 理事・日本外傷治療研究機構インストラクター、
難波 妙 / 調整員 / AMDA 理事
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：
ウランバートルエマージェンシーサービス 103 救急医、AMDA インターナショナル参与 ニンジン ギリヤセド、AMDA 本部
◇**受益者数**：　26 人
◇**受益者の声**：
「長年に渡って、モンゴルの救命救急に必須の研修を行っていただいていることが、ウランバートルエマージェンシーサービスの医師たちにとっては、各人の技術レベルの確認と技術向上にむけた大切な機会になっています。」



◇**事業内容**：
AMDA は、2012 年 9 月より、ウランバートル市内で緊急医療をおこなっているモンゴル保健省直属のウランバートルエマージェンシーサービス（通称 103）において救命救急研修を実施している。これまで同署の署長やスタッフを岡山に招いて緊急搬送に関する視察と研修を実施したり、日本から救命救急の専門家を派遣して、研修を行うなど活発な交流を行ってきた。

2017 年から 2019 年まで、毎年、佐藤拓史医師（日本外傷治療研究機構インストラクター）による研修を行った。2019 年は、ウランバートルのみならず、エルデネット県（ウランバートルから車で 7 時間）の救急救命医にも、外傷治療に必要な超音波診断、骨髄内輸液、心嚢穿刺、外科的気道確保等、救命救急に不可欠なアプローチについての研修を重ねてきた。この時点までの研修受講者は 200 人以上。

コロナ禍により、2020 年から 2 年間は研修を中断したが、2022 年は、佐藤医師による外傷治療における診断と必要な治療技術のセミナーが 2 日間に渡って開催された。モンゴルの救急車は、日本でのドクターカーに相当する。各救急車に救急医が同乗し、現場での診断と治療が可能になるため、救急医にはより高い知識と治療技術が求められている。今回の研修はポータブルエコー（超音波診断装置）を用い、内科的診断や外傷の診断など、救急医に求められる様々な場面での正確な超音波診断の習得を目指した。また通常の方法で輸液ルートが確保できない場合に必要となる骨髄内輸液の手技や、様々な状況を想定した客観的臨床能力を向上させるためのプログラムを実践した。

今回は、ウランバートル周辺の救急医も含め 26 人の医師が参加した。近い将来に救急車にポータブルエコーの装備が考えられている中での研修は、優先順位の高いものであった。モンゴルの救急医療を担っていく若き医師た

ちは情熱と責任感に満ちており、今よりもっとできるようになりたいと願う気持ちがとても大きく、将来が期待される。

研修後、ウランバートルエマージェンシーサービス 103 の署長と佐藤医師とでポータブルエコーの導入についての具体的な検討が行われた。半年後、5 台の導入を決定したとの署長からの連絡をうけた。これはモンゴルの救急体制が更に改善するきっかけともなった。

■ネパール内視鏡技術研修事業

◇実施場所： ダマック市・AMDA ダマック病院

◇実施期間： 2023 年 3 月 7 日～ 13 日

◇派遣者：

佐藤 拓史 / 医師 / AMDA 理事、アルチャナ ジョシ / 調整員 / AMDA 職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ダマック病院、AMDA 本部

◇受益者（研修参加医師）数：

同病院ディワス ラズ ボホラ医師他、地元医師 5 人

◇受益者の声（内視鏡検査を受けた患者の声より）：

「大腸カメラの検査はとても苦しいと聞いており、今まで何度も受けるのをやめていました。今回、日本からの医師の指導の下で検査を受けました。検査を受けてよかった。」

◇事業内容

AMDA ネパール支部が運営する 3 つの病院のうち、ネパール東部にあるジャパ郡ダマック市に AMDA ダマック病院がある。地域の中核病院であり、多くの患者が訪れるが、内視鏡技術は普及していなかった。

2015 年 4 月に発生したネパール中部地震の支援活動時、同病院から派遣されたディワス ラズ ボホラ医師が、当時 AMDA から派遣された佐藤拓史医師と出会ったことがきっかけとなり、2016 年に約 3 か月、岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業の一環として、岡山済生会総合病院で内視鏡の研修を受けた。

その後 2018 年と 2019 年、AMDA ダマック病院での内視鏡技術向上を目的に、佐藤医師が同病院にて上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の技術的指導、病変診断等について研修を行った。翌年以降は新型コロナウイルス感染拡大にともない、研修の実施が困難だったため、2021 年はオンラインでの研修となった。

そして 2023 年 3 月、4 年ぶりに AMDA ダマック病院にて佐藤医師による内視鏡研修を再開した。今回はディワス医師とともに地元の医師も参加し、麻酔を使用しない下部消化管内視鏡（大腸カメラ）の研修を実施した。まずは日本から持参したシミュレーターを用いてのトレーニングを行い、その後は佐藤医師の指導の下で、全大腸内視鏡 19 人、上部内視鏡 13 人の患者の検査・治療を行った。今回はダマック以外の地域からも患者さんが診察を希望され、大腸カメラ検査を受けた。20 代から 80 代の患者さん 32 人（男性：15 人、女性：17 人）から、直腸癌、上行結腸癌、S 状結腸捻転、クローン病、ポリープなどの病気が見つかった。

地方の病院にて、地元の医師自らが内視鏡検査・治療を出来るようになることで、たくさんの命が救われることになることから、今回の研修はとても重要な意義深い研修であると、研修参加者は実感した。

3 月 15 日には、佐藤医師、AMDA ダマック病院の元病院長ナビン医師と AMDA 調整員アルチャナ ジョシは、在ネパール日本大使館にて菊田豊特命全権大使を表敬訪問し、これまでの内視鏡研修について報告し、ナビン医師からは、在ネパール日本大使館の支援で建設された同病院 ICU で、コロナ禍の中 500 人以上の患者が治療を受け、今も多くの患者が使用していることを報告し、菊田大使からも「日本国民からの支援が、現地の方によって大いに生かされていることがとてもうれしいです。」と話された。

尚、今回の技術指導で使用した大腸内視鏡のスコープは、台湾保健省から寄贈されたものである。

3　友好病院事業

■アフガニスタン

日程	病院名	受益者数（2022 年度）	活動内容
2011 年～継続中	アフガニスタン・日本アフガニスタン友好病院	延べ 24,086 人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA アフガニスタン支部 【診療科】内科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科 【スタッフ数】17 人（医師 5 人、歯科医 1 人、看護師 3 人、その他医療専門職など） 【これまで】 2011 年、AMDA アフガニスタン支部長のラヒミ医師と 6 人の理事がカブールで開院。医師を日本に派遣して研修を受けさせるとともに、地域の貧困層を対象に良質な医療サービスを提供している。コロナ禍においては、医療費の支払いが困難な患者に無料で対応。マスク等の感染予防用品、ならびにパンフレットを配布し、地域におけるコロナ感染予防を指導・推進した。尚、同支部は、これまで周辺地域で自然災害が発生した際に幾度となく医療チームを派遣している。

■ネパール

日程	病院名	受益者数（2022 年度）	活動内容
1992 年～継続中	ネパール・AMDA ダマック病院（ジャパ郡ダマック市）	延べ 72,000 人以上	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】麻酔科、一般科、外科、産婦人科、小児科、放射線科、整形外科医、耳鼻科、歯科、眼科 【スタッフ数】231 人（うち医師 33 人、看護師 75 人） 【これまで】 1992 年　AMDA ネパール支部を実施主体として、メチ県ジャパ郡ダマック市でブータン難民と地元双方の医療支援の対象として開設。 1996 年　病院の付属施設として、AMDA 健康科学学院（AMDA Institute of Health Science) が設立。この学院では看護師コース、医療補助師コース、準助産師コース、地域医療補助師コース、臨床検査技師コースを実施しており、毎年各コースに 40 人の学生が入学し合計 200 人の学生が勉強している。 2005 年　日本大使館からの支援で学院の建物を建設。 2017 年　在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ICU ユニットの増設が完成、診療を開始。 ＊ 2016 年岡山済生会総合病院にて研修を受け、その後ダマック病院にて佐藤拓史医師 (東亜大学医療学部教授) による研修を受けた同病院内科医のディワス医師を中心に内視鏡検査も実施、早期のがんを発見するなど、地元の方々の健康維持に貢献している。必要に応じて近辺の村で巡回医療支援を実施している。
2008 年～継続中	ネパール・AMDA メチ病院（ジャパ郡メチナガル市）	延べ 約 8,000 人以上	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】一般科 【スタッフ数】24 人 (うち医師 4 人、看護師 3 人) 【これまで】 2008 年　在ネパール日本大使館、メチナガル市役所、商工会議所の支援によって設立。 2015 年　臨床検査技師のコースを開始。 現在は、AMDA ネパール支部、市役所及び商工会議所の共同プロジェクトとして運営。 メチナガル市民だけでなく周辺の村々に住む住民が怪我や一般的な疾患のためこの病院を受診、2022 年度は一般外来及び救急外来などで医療サービスを提供した。
1998 年～継続中	ネパール・シッダールタ母と子の病院（通称：ネパール子ども病院、ルパンデヒ郡ブトワール市）	延べ 69,000 人以上	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】 産婦人科、小児科、新生児科 【スタッフ数】187 人（うち医師 22 人、看護師 69 人） 【これまで】 1998 年 11 月　阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の協力により設立された、首都以外では唯一の母子専門病院。設計は安藤忠雄建築事務所がボランティアで協力。 2011 年 8 月　新たな周産期病棟の建設を開始、翌年 11 月に完成。新病棟では陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮している。
1999 年～継続中	ネパール・シマズ歯科医院（カトマンズ郡ジョルパティ市）	延べ 1.200 人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】 歯科 【スタッフ数】2 人（うち医師 1 人）

■バングラデシュ

日程	病院名	受益者数（2022 年度）	活動内容
1994 年～継続中	バングラデシュ・日本バングラデシュ友好病院（ダッカ）	約 56,000 人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA バングラデシュ支部 【診療科】30 以上の専門部門を有する大規模総合病院 【スタッフ数】301 人（医師、医療技術者、その他含む） 【これまで】 日本に留学していた現・支部長のナイーム医師が同じく日本に留学していた医師 3 人とともに設立。病院名である「日本バングラデシュ友好病院」の名付け親は、病院開設を勧めた菅波茂 AMDA 理事長。開業当初は 30 床の病院だったものの、その後、100 床の総合病院にまで発展。内視鏡・腹腔鏡手術から透析、リューマチセンター、集中治療室、24 時間体制の救急対応に至るまで、幅広い医療ニーズに対応している。看護学校を開校し、後任の育成に当たるほか、今後は高齢者医療に特科した病院や老人ホームの開設を計画している。

■モンゴル

日程	病院名	受益者数（2022 年度）	活動内容
2012 年～継続中	モンゴル・日本モンゴル友好病院（ウランバートル）	延べ 2,400 人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA モンゴル支部 【診療科一般内科、緩和ケア 【スタッフ数】13 人（医師 4 人、看護師 4 人、その他スタッフ） 【これまで】 AMDA の海外支部が開設した病院としては最も新しい病院。開院当初より、内科治療のほか、妊産婦検診や幼児への各種予防接種の実施、保育園の設置など、地域における母子の医療ニーズにも対応してきた。緩和ケアにおいては、医療費を支払うことのできない患者にも、極力支援の手を差し伸べている。モンゴル国立医科大学との連携や、ISO 取得に向けた動きなど、今後も更なる展開が期待されている。

アフガニスタン・日本アフガニスタン友好病院

ネパール・AMDA ダマック病院

バングラデシュ・日本バングラデシュ友好病院

モンゴル・日本モンゴル友好病院

■ 菅波理事長、ネパールの病院訪問

◇**訪問場所：**　ダマック市、メチナガル市、ブトワール市、ゴカルネスォル市
◇**訪問期間：**　2022 年 9 月 22 日～ 29 日
◇**派遣者：**　菅波　茂 / 医師 / AMDA インターナショナル代表、アルチャナ　ジョシ / 調整員 / AMDA 職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**AMDA ネパール支部、AMDA 本部
◇**事業内容：**

AMDA ネパール支部は 1989 年に設立、翌年にネパール政府より「AMDA ネパール」として認可された。以来、地域住民に保健医療サービスを提供してきた。更に同支部はダマック市、メチナガル市、ブトワール市に病院を、ゴカルネスォル市では歯科クリニックを、それぞれの自治体と商工会議所と協力しながら運営している。

新型コロナウイルスの影響で、海外への渡航が難しい状況が続いていたが、規制などが緩和されたことを受け、2022 年 9 月、約 3 年ぶりに AMDA 菅波茂理事長と職員のアルチャナ　ジョシがネパールに入った。上記の病院及び歯科クリニックにご協力いただく各市の市長及び副市長、商工会議所を表敬訪問した菅波理事長は、これまでのご協力への感謝、そして今後の継続的なご協力をお願いした。更に、AMDA ネパール支部が運営する病院・歯科クリニックも訪れ、「地域住民に対し、医療サービスを提供し続けていることを誇りに思う。」と述べた。

教育支援

グローバル人財育成事業

AMDA 中学高校生会

「写真で語るウクライナ避難者支援活動」にスタッフとして参加

高知県黒潮町にて津波避難タワー見学

高知県黒潮町にて缶で炊飯

その他

JICA 日系社会研修（多文化共生推進 / 日系協力型）“ 日系サポーター ”：ペルー人研修員受入

岡山県庁にて災害対応などについて伺う

岡山市の消防局を見学

1　グローバル人財育成事業

■ AMDA 中学高校生会

概要

◇**実施場所：**　岡山県岡山市など

◇**実施期間：**　1995 年～継続中

◇**事業内容：**

AMDA 中学高校生会（以下、中高生会）は 2022 年度、33 人のメンバーで活動した。新型コロナウイルス感染対策のため、2020 年と 2021 年はオンラインで定例会を実施していたが、今年度は対面にて実施。活動計画や具体的な内容に関する話し合い、活動後の振り返りなどを行った。

① AMDA 中学高校生会と黒潮町中学生・高校生の交流事業

◇**実施場所：**　高知県幡多郡黒潮町

◇**実施日：**　2022 年 9 月 3 日～ 4 日

◇**参加者：**　中高生会 11 人、黒潮町立佐賀中学校、黒潮町立大方中学校、高知県立大方高校合計 16 人、他、常原 琢磨（AMDA 中学高校生会チーフコーディネーター）、AMDA 職員 4 人、JICA 研修員（ペルー人）1 人

◇**参加者の声：**

「交流会で学んだこと、教わったことを岡山県、特に自分の地域・家庭でどう取り入れていくのか。そして、AMDA 中学高校生会で何ができるのか。次世代に防災文化を繋げていくために、これらの課題に対する答えを考え続けたいと思う。」

「日本一の津波避難タワーに登って、浸水する高さを体験したことで、津波に対する危機感が増した。岡山は黒潮町ほど津波に対する危機感が無いと思っていたが、黒潮町の活動を知って、いつ、どこで津波が来るかわからないため、対策をきちんとしていかなければならないと思った。」

「岡山県の防災は何も進化していないうえに災害に対する意識が著しく低いと感じた。黒潮町の学生は下校時に避難訓練をしたり防災バッグを学校に持ってきて見せあったりしていた。しかし、岡山では一切見た事がない光景のように思える。私は、この交流会で岡山県民の災害に対する意識はまだまだ改善できると学んだ。岡山の防災能力を向上させるために私たち学生の目線でできることをもっと考えていきたいと思った。」

◇**事業内容：**

2017 年より毎年実施している中高生会の生徒が防災をテーマに地元の生徒とそれぞれの取り組んでいる防災活動について交流を行っている。今年度 6 回目となる黒潮町の中学生高校生との災害・防災についての交流会を 2022 年 9 月 3 日に実施した。黒潮町の中学生高校生との交流は、新型コロナウイルス感染対策のため 2020 年と 2021 年はオンラインで実施していたが、今回は 3 年ぶりに対面での交流会を高知県幡多青少年の家の会場で行った。

黒潮町の松本町長のご挨拶いただき開始した交流会では、黒潮町職員の方から町の防災の取り組みについて説明、中高生会のメンバーからは国内外の災害対応について発表、黒潮町立佐賀中学校、黒潮町立大方中学校、高知県立大方高等学校からは各学校で生徒が取り組んでいる防災活動についての発表、最後にはペルーからの研修員より自国についての発表があった。

交流会の後に中高生会やペルーの研修生は災害時にも役立つ防災食（アルミ缶炊飯とカレー）の作り方を高知県幡多青少年の家の職員より学んだ。

2 日目は黒潮町職員の指導を受けながら「逃げトレ」アプリを利用して津波タワーまでの避難訓練を実施した。その後、黒潮町職員より津波タワーの説明を受け、黒潮町の住民の方々は常日頃から防災訓練に取り込んでおり、また災害はいつどこで起きるか分からないため、平時からの災害対策の重要性を改めて実感した。

②ウクライナ人道支援関連への協力

◇**実施場所：**　岡山県内

◇**参加者：**　写真展準備・運営８人、法被寄せ書き６人

◇**事業内容：**

AMDA は３月７日よりウクライナ人道支援を行っており、中高生会はこの支援に協力し写真展の準備・運営や法被に寄せ書きを書いた。

AMDA は７月にハンガリーにてウクライナとハンガリーの交流として現地協力団体が開催する料理イベントに協力することになった。現地協力団体より、日本らしい服を着たいと要望があり白色の法被を準備し、日本の方々にメッセージを綴ってもらうことに決めた。そこに中高生会も参加し、法被にメッセージを綴った。その法被を AMDA 調整員が日本からハンガリーに持っていき、イベントで着用した。ウクライナやハンガリーの方々は「私も着たい。」と喜んで着用していた。

また AMDA は８月 19 日から 21 日に「写真で語るウクライナ避難者支援」と題し、岡山県生涯学習センターにて写真展を開催した。中高生会は、写真展に使用した写真のエピソードカード作成や、会場の設営や運営の協力を行った。手書きのエピソードカードは、来場者の方から「ぬくもりを感じられる。」と好評であった。また、運営のお手伝いとして、ウクライナの子どもが絵を描いている白い布に日本の子どもたちが絵を描くというイベントをした際に補助要員として協力した。中高生にもできることがあると実感する場となった。

２　こども食堂支援プラットフォーム

■ AMDA こども食堂支援プラットフォーム

概要

◇**実施場所：**　岡山県内

◇**実施時期：**　通年実施

◇**事業内容：**

2017 年 12 月、産官学民で組織する「AMDA こども食堂支援プラットフォーム」を設立し 2022 年度も継続して支援を行った。こども食堂への支援は食材や生活用品の提供だけでなく、子どもたちが将来社会参加できる機会や環境を整え、子どもの意欲形成に繋げる活動を目指している。こども食堂の運営に取り組む希望団体へ次のような活動を行った。

①グンゼの肌着配布

◇**実施場所：**　岡山県内

◇**実施時期：**　2023 年１月

◇**受益者数：**　８団体

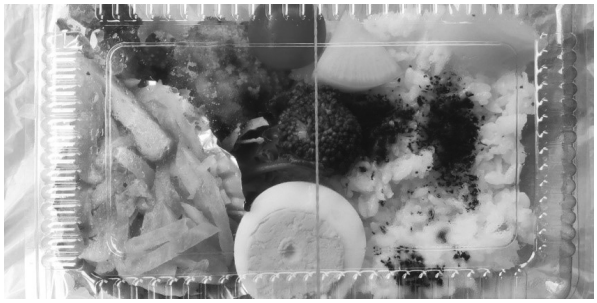
◇**受益者の声**（保護者より）：

「信頼できる製品でありがたい。」と喜んでいた。

◇**活動内容：**（肌着 560 枚をこども食堂に提供）

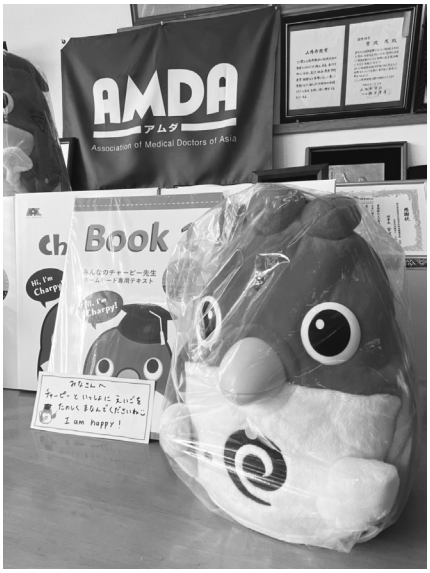
グンゼ株式会社ラブアース倶楽部様より AMDA にご提供いただいた肌着 560 枚を希望されるこども食堂に提供した。各こども食堂では、こども食堂に参加した人を対象に、子どもたち自身が箱の中からサイズを探しながら選んだり、お迎えのお母さんと一緒に選んでいた。「多子家庭やシングルマザーの家庭を含め支援が届きづらい家庭へも個別に物資を届けたりしている。」とこども食堂の方よりご報告いただいた。

②お米の配布



◇実施場所：　AMDA 事務所にて配布
◇実施時期：　2023 年 3 月
◇受益者数：　5 団体
◇受益者の声：
「物価高騰の折、お米は大変ありがたい。」
◇活動内容：
2022 年度、AMDA ではご寄贈いただいた合計 300kg の米を希望されるこども食堂 5 団体に提供した。
ひとり親家庭などへお米と食材の配布をするほか、こども食堂で食事や弁当を提供したり、遊びの場で子どもたち同士の交流が生まれている。これまでつながりの薄かったお子さんや家庭にも、物資を介することで「今後はこども食堂に参加してみよう。」とか現在の家庭の状況を話してくれたりなど、次の支援につながるきっかけになった。また、お米を寄贈してくださった方へのお礼の言葉がたくさんあった。

③英会話ロボット「みんなのチャーピー先生」の配布



◇実施場所：　AMDA 事務所で配布
◇実施時期：　2023 年 1 月
◇受益者数：　1 団体（55 人）
◇活動内容：
2021 年度に続き、福電資材株式会社様よりご寄贈いただいた英会話ロボット「みんなのチャーピー先生」を希望団体に寄贈した。
子どもたちは、音声でしゃべるチャーピー先生に興味津々で、次から次へと話しかけていた。見た目もかわいらしいので、ぬいぐるみのように抱っこして遊んでいる子どもたちもいた。今後は自由に使って遊びながら学習支援などでも継続して活用していく。

3　その他

■ JICA 日系社会研修（多文化共生推進 / 日系協力型）“ 日系サポーター ”：ペルー人研修員受入

◇実施場所：　岡山県内、徳島県内、高知県黒潮町
◇実施期間：　2022 年 8 月 2 日～ 9 月 7 日
◇研修員：　キャサリン・ドゥガルド（ペルー）
◇事業内容：
JICA 日系社会研修（多文化共生推進 / 日系協力型）通称 ” 日系サポーター ” を通じ、南米ペルーよりキャサリン・ドゥガルドさんが来日。約 1 か月間、AMDA にて「日本における防災と災害支援」について研修を受けた。本研修では、日本での行政レベル（国及び自治体）・民間レベル（企業・NGO）の防災や災害支援のノウハウを学んでいただくこと、更に得た知識や経験を元に、自国で研修員が実現可能な防災計画・災害支援計画を立案することを求めた。
キャサリンさんの最初の課題は、自国ペルーの過去の大規模災害や、災害対応などを調べ、日本語で AMDA 職員たちに発表することだった。職員たちもペルーについて、特に日本同様、大地震の発生が予想されていること、そしてキャ

サリンさんは予想される大地震に対し、同国内での防災意識向上を目指していることを伺った。キャサリンさんも職員たちも、本研修がより良い成果となるよう努めようと改めて思った。

その後、AMDA 事務所にてこれまでの災害支援、そして南海トラフ災害に向けた取り組みなどについて学んだ。これまで支援活動にご協力いただいた方々や AMDA ペルー支部と直接、あるいはオンラインでキャサリンさんに活動内容についてもお話しいただいた。特に、東日本大震災以降、復興に携わってこられている岩手県大槌町の方々とのオンラインミーティングでは、「郷土愛があったから、この土地で復興に携わった。」「震災・人の転出により人口が減り、コミュニティが崩壊した。今後はコミュニティを強化していきたい。」とのお話に、キャサリンさんは「『ここで生まれ、ここで育ち、ここに住み続けたい』という大槌町の人に感動して心がとても暖かくなった。この経験で私はもっと自分の力で変わりたいと思った。」と感想を述べた。

また、複数の機関・施設を訪問し、それぞれの立場での災害・防災対応について伺った。岡山県や岡山県総社市、岡山市西消防署では、それぞれの災害や防災の取り組みに加え、2018 年に岡山県下で甚大な被害を受けた西日本豪雨での対応についてもお話をいただいた。また、川崎医科大学附属病院と岡山済生会総合病院では、DMAT(災害派遣医療チーム) などの災害時の医療対応について伺った。

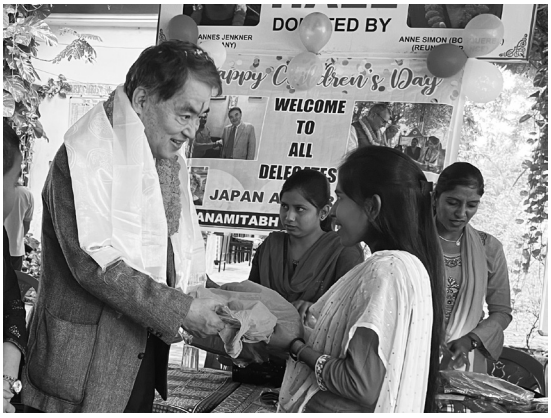
加えて、発生が予想されている南海トラフ地震・津波に対し、「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」として、AMDA とともに準備を進めている徳島県美波町をキャサリンさんは訪問した。町役場の担当者や美波町国民健康保険美波病院から南海トラフ災害発生時の対応計画をご説明いただいた。また、同県医療法人芳越会ホウエツ病院も訪れ、大きなヘリポートを備えているため、緊急時に被災者のケアと派遣を行うための非常に重要なアクセスポイントであることを学んだ。そして、同じくプラットフォーム協力自治体である高知県黒潮町には、AMDA 中学高校生会と訪問し、同町の職員から防災についてのご説明、そして同町内の中学校・高校より各校の取り組みについて伺った。その他、中学高校生会メンバーとアルミ缶で炊飯とカレーを作り、「逃げトレ」というアプリを用いて津波避難タワーまで避難する訓練にも参加。キャサリンさんも知識としてだけでなく、「生徒の参加を見て、災害への備えと対応の重要性を強化するのに役立つ、ペルーの学校でのより多くの活動を考え出すようになった。」と語った。

そして 9 月 7 日には、研修報告とペルー帰国後の防災・災害対応計画について発表を行う「最終報告会」を実施。この会には、本研修をご担当いただいた JICA 中国、「日系サポーター」事業を当法人にご紹介いただいた JICA ペルー事務所、キャサリンさんの職場の上司とご家族、そして AMDA ペルー支部及び AMDA-MINDS の方々にもオンラインでご参加いただき、キャサリンさんは日本語とスペイン語で発表した。その後、JICA 中国による研修の修了式が執り行われた。キャサリンさんは、「災害への備えだけでなく、より良い人間になる方法を教えてくれる多くの人に会うことができた。日本の災害への備えと対応の重要性について学んだ貴重な知識と教訓を心に留め、心の中で日本の相互扶助への努力と情熱を鼓舞している。ペルーに戻ったら、もちろん私の経験をすべて同僚と共有するが、AMDA との協力を続け、将来の協力の方法を模索したいと思う。ペルーと日本の協力の機会をもたらすこのプログラムに参加することを許可してくれた JICA と AMDA に感謝しかない。Hasta pronto（またね）!」と研修後に感想をくれた。

研修は終了したが、これが終わりではなく、キャサリンさんとはペルーと日本の架け橋として、両国の防災及び災害対応にともに取り組んでいけたらと願っている。今回の研修にあたり、JICA 中国、JICA ペルー事務所、そしてキャサリンさんの研修にご尽力いただいた関係者・関係機関の皆様に改めて御礼申し上げる。

■インド・ブッタガヤで現地の NGO 学校への支援

◇**実施場所：**　ビハール州ブッタガヤ
◇**実施日：**　2022 年 8 月 8 日、11 月 14 日
◇**派遣者**（11 月 14 日のみ）：
菅波 茂 / 医師 / AMDA インターナショナル代表、アルチャナ ジョシ / 調整員 / AMDA 職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成：**
現地 NGO ジナアミタブ、ジナアミタブ無償寄宿学校、AMDA 本部
◇**受益者数：**　8 月 8 日文房具支援 144 人（うち 111 人には教科書も配布）
11 月 14 日制服支援 45 人
◇**受益者の声：**
「制服から古くなって着られなくなったので新しい制服をいただき嬉しい。」
「将来医師になりたい。」「海外で勉強したい。」「先生になりたい。」
◇**事業内容：**



インドで最も貧しいとされるビハール州で活動する現地 NGO のジナアミタブは 20 年前からフランスにある NGO の支援を得て経済的な理由から学校に通えない子どもたちを無償で受けいれる寄宿舎学校を運営している。近年 AMDA と活動を共にしてきたジナアミタブは新型コロナ感染拡大及び支援者の高齢化に伴って学校への寄付金が減ったため、AMDA 本部に支援の要請があり、AMDA は支援を決定した。

8 月には 144 人の生徒の内 111 人に新しい教科書を配布、全ての生徒に文房具を支給した。その他生理用ナプキン、応急処置用の薬、事務用の文房具などの支給も行った。

そして 11 月には菅波理事長が同学校を訪問、45 人の生徒に制服を手渡した。制服を渡された生徒からは「制服が新しくなってうれしい。」と話されていた。職員や生徒は学校の玄関に集まり、自分たちが学内で育てた花の花束や首飾りで歓迎された。

インドでは毎年 11 月 14 日は、インドの初代首相ジャワーハルラール・ネルーの誕生日及び子どもの日としてお祝いをする習慣があり、学校では生徒たちが集まって歌を歌ったり、発表したりしていた。制服贈呈式の後には、理事長と生徒の交流の場が設けられ、生徒が夢を語る姿が見られた。

また、学校の敷地内に菅波理事長と AMDA 職員よりジャックフルーツの木とジャムンの木（インドのモンスーンシーズン限定の果物で、神の果実とも呼ばれているほど様々な効能を含んだ果実）を植えた。敷地内でたくさんの花や果物の木を植えられていて緑のまちづくりとして力を入れている。

生活支援

1　有機農業事業

■ AMDA フードプログラム

概要

◇実施場所：　インドネシア・マリノ村

◇実施期間：　2012 年 4 月 1 日～継続中

◇事業内容：

アジア圏における有機農業の普及を目的に 2012 年よりスタート。AMDA は岡山県真庭郡新庄村の野土路地区に農場を開設後、アヒルを使った無農薬有機稲作栽培等を実践してきた。その後、モットーである「食は命の源」の精神はインドネシア・マリノ村での有機農業事業に引き継がれている。

AMDA マリノ農場

◇実施場所：　インドネシア・マリノ村

◇実施期間：　2014 年～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

現地農家（常時 15 世帯程度）、AMDA インドネシア支部

◇事業内容：

もみ殻燻炭や自家製の肥料などを使い、有機農法による稲作と野菜の栽培を手掛けている。生産者は主に地元インドネシア・南スラウェシ州マリノ村の農家だが、ここ最近、同地区において従来型の農業から有機農業に転換する生産者が増えている。一連の波及効果はひとえに 2023 年で 9 年目を迎える AMDA マリノ農場の大きな功績であり、AMDA が目指す「アジア圏における有機農業の普及」を体現しているといえる。新型コロナウイルスの世界的流行という大きな弊害はあったものの、極力普段通りの活動を行うべく邁進してきた農家。定期的に生産者同士で意見交換を行うなど、知識と技術の向上に余念がない。昨今日本でも聞かれなくなった「篤農家」という言葉が、そんな彼らの姿勢を見事に言い表している。赤米の販路拡大や、日本のキュウリをはじめとする新たな作物の栽培など、今後も更なる取り組みが期待されている。

2　その他

■インド・ブッタガヤ「お年寄りの家」への支援

◇実施場所：　ビハール州ブッダガヤ

◇実施時期：　2022 年 11 月～継続中

◇派遣者：　菅波 茂 / 医師 / AMDA インターナショナル代表、アルチャナ ジョシ / 調整員 / AMDA 職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

「お年寄りの家」ヴェーダ ラグヴェディニ、AMDA 本部

◇受益者数：　「お年寄りの家」に居住する 16 人

◇**受益者の声**（ヴェーダ氏より）：

「牛、鶏、アヒルを買っていただきありがとうございます。動物の面倒は入居者の方々も見てくれていて、毎日が楽しくなったといわれています。今までは、牛乳や卵はたまにしか食べられてなかったのですが、これからは毎日食べられて、お年寄りの方々も元気になってきました。また、急に病気になったり、亡くなったりしたとき用の貯金もできて、安心しています。支援者の皆様に心より感謝したい。」

◇**事業内容**：

AMDA ピースクリニックの元スタッフであるヴェーダ氏は南インド出身であり、ご主人を亡くされた後、もっとも貧しい州として知られるビハール州ブッタガヤに移り住み、残りの人生は貧しい人々のために捧げたいと考え、「お年寄りの家」を設立した。ヴェーダ氏は、アーユルヴェーダのマッサージ師の資格を持っており、ブッタガヤを訪れる国内外の観光客対象にマッサージを施術し、その売り上げの一部でお年寄りの家の運営を行っていた。コロナ感染症対策による都市封鎖や海外からの観光客の入国制限によりマッサージに通う人がいなくなり、やむを得ずマッサージでの収入をあきらめることになった。そこで 2020 年 3 月から 2022 年 3 月までは AMDA がピースクリニックの患者と共にお年寄りの家に定期的に食糧支援を行った。

11 月 15 日には菅波理事長がブッダガヤに訪れた際にお年寄りの家を訪問した。16 人のお年寄りが青いトタン屋根とレンガでできた平屋の建物に住んでいて、仕切りのない大きいな部屋にベッドが並べられていた。月に数回、お年寄りの家を訪れて食糧、衣服、薬などを配布される方はいるが、定期的な支援はなく、月によっては食糧、栄養食材、薬などを購入するための資金不足で困っているとのことである。

AMDA は、このお年寄りの家に 1 年分のお米とともに、牛 1 頭と子牛 2 頭、鶏 20 羽、アヒル 5 羽を支援した。牛乳や卵はお年寄りに栄養食材として提供したうえで、残った牛乳や卵は市場で売って、その売り上げで必要なものや、お年寄りの治療費、葬式費用のために貯金をしていくことになった。

■インド・ブッタガヤでの食事支援

◇**実施場所**：　ビハール州ブッタガヤ

◇**実施時期**：　2023 年 1 月～継続中

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**：

AMDA ピースクリニックスタッフ含むボランティア約 10 人

◇**受益者数**：　毎週 120 人以上

◇**受益者の声**：

「美味しかった。」

◇**事業内容**：

AMDA は 2009 年からインド、ビハール州のブッタガヤで、AMDA ピースクリニック（以下 APC）で母子保健事業を実施している。ビハール州はインドでも最貧州の一つであり、低カーストで貧しい人々がたくさん暮らしている。また新型コロナウイルス感染対策による制限により、多くの人が失職した。

新型コロナウイルス感染対策による制限が緩和されたことにより、国内外より観光客がブッタガヤに訪れるようになった。しかし未だに周辺の村、特に女性・子ども・お年寄り・身体障害者の方々の生活は厳しく、食事すらまともにできない状況である。そこで、AMDA では毎週火曜日の昼に食事支援を行っている。小さな子どもも多く訪れていて、美味しそうに食べていた。村人は普段外部の人と話をする機会も少ないため、大変嬉しそうにされていた。

メニューはご飯、ダール豆のスープ、ミックス野菜カレーで、スープは毎回ダール豆の種類を変えたり、野菜も季節の野菜を中心に毎回違うものを入れてたり、工夫している。

調理人が中心となってたくさんの食事を作ってもらっていて、APC スタッフや関係者ボランティアの協力で、食事の準備・調理・配布・片付けを行っている。参加したスタッフから「食事の準備や片付けで大変忙しくなりましたが、たくさんの方々が食事を美味しそうに食べて、満足そうな笑顔を見るとこちらも嬉しくなり、また次回も頑張ろうという気持ちになりました。」というスタッフからの報告とメッセージも届いている。

連携協力協定調印

■海外連携協力協定調印

・ハンガリー国立センメルワイス大学	2022 年 6 月 24 日
・日本モンゴル教育病院	2022 年 9 月 21 日
・セントミッシェル小児総合リハビリセンター（ウクライナ）	2022 年 10 月 19 日
・ダイナスティメディカルセンター（ウクライナ）	2022 年 10 月 19 日

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）団体概要

所在地	〒 700-0013　岡山県岡山市北区伊福町 3 丁目 31-1
設立年月日	1984 年 8 月 国連経済社会理事会「総合協議資格」取得　2006 年 認定 NPO 法人に認証　2013 年 5 月 8 日付
AMDA グループ構成団体	特定非営利活動法人アムダ : AMDA AMDA インターナショナル（任意団体） 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター AMDA 兵庫（任意団体）
海外活動	緊急医療支援、難民医療支援、復興支援、合同医療ミッション、 スポーツ親善交流、グローバル人財育成、フードプログラム、セミナー開催　など
活動国	日本、ネパール、インドネシア、モンゴル、インド、ハイチ、ルワンダ、フィリピン、 バングラデシュ、カンボジア、ホンジュラス、ハンガリー、トルコ　他
国内活動	緊急医療支援、復興支援、フードプログラム、こども食堂支援、 出張講演、大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、 AMDA 中学高校生会、イベント参加、 南海トラフ災害対応医療チーム派遣準備　など
AMDA 支部	沖縄支部、神奈川支部
AMDA クラブ	高知、福山、竹原、神女（神戸女子大学）　各クラブ
スタッフ	常勤 9 人　非常勤 1 人　派遣 1 人
会員数	582 人
ER ネットワーク登録数	653 人

2023 年 5 月 31 日現在

特定非営利活動法人　アムダ（AMDA）役員

理事長	菅波　　茂	医師　AMDA グループ代表
副理事長	菅波　知子	医師
理事	佐藤　拓史	医師　東亜大学医療学部教授　モンゴル国立医科大学招聘教授
理事	中西　　泉	医師　医療法人社団慶泉会町谷原病院　理事長
理事	難波　　妙	特定非営利活動法人アムダ　GPSP 支援局長
理事	難波比加理	特定非営利活動法人アムダ　財務部長
理事	野島　　治	元倉敷市教育委員会　嘱託啓発指導員・小学校校長
監事	広田　眞美	医師　医療法人和仁会　福岡和仁会病院

2023 年 6 月 30 日現在
（理事名：五十音順）

国内の動き

■大学・専門学校等講義（実施日順）

福山市医師会看護専門学校、朝日医療大学校、鳥取看護大学、岡山大学、ノートルダム清心女子大学、就実大学、玉野総合医療専門学校、岡山県立大学大学院、相生市看護専門学校、山陽学園大学大学院、美作市スポーツ医療看護専門学校、旭川荘厚生専門学院

■講演（実施日順）

特定非営利活動法人日本トイレ研究所、ノートルダム清心女子大学附属小学校、天台宗岡山教区、玉野市立山田中学校、岡山理科大学、岡山県立林野高等学校、日本労働組合総連合会岡山県連合会、岡山ユネスコ協会、特定非営利活動法人こくさいこどもフォーラム岡山、岡山県隣保館協議会、栄光テクノ株式会社、岡山県立倉敷古城池高等学校、笠岡市・矢掛町中学校組合立小北中学校、笠岡市吉田文化会館、橋本総業株式会社、岡山市立津島小学校、早島町立早島小学校、総社市立総社西中学校、岡山県立勝山高等学校、岡山県立倉敷中央高等学校、岡山市立福南中学校、真庭市社会福祉協議会、津山市立北陵中学校、倉敷翠松高等学校、堺自由の泉大学、徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校、岡山県立津山東高等学校、岡山市立岡山後楽館高等学校、ノートルダム清心学園清心中学校、公益社団法人兵庫県柔道整復師会、岡山市立石井小学校、岡山県教育委員会、おかやまコープ備北エリア、笠岡ロータリークラブ、岡山県モラロジー協議会、国際ソロプチミスト岡山

■研修受け入れ

・キャサリン ドゥガルド さん
（2022 年度 JICA 日系社会研修（多文化共生推進 / 日系協力型）” 日系サポーター ” でペルーより招聘）

■インターンシップ受け入れ

・片山 菜那 さん（2023 年 2 月～ 3 月）

■主催イベント

・まちかどトーク（2022 年 4 月 5 日、2023 年 2 月 10 日、14 日）
・ウクライナ避難者緊急支援活動報告会（2022 年 5 月 3 日）
・写真展「写真で語るウクライナ避難者支援」
（岡山市：2022 年 8 月 19 日～ 21 日、大阪府堺市：2022 年 12 月 2 日～ 4 日）
・AMDA 大槌健康サポートセンター リニューアルオープン（2022 年 12 月 4 日）
・ウクライナ人道支援活動　報告会（2023 年 2 月 23 日）

■主な参加イベント

・岡山シーガルズホームゲーム赤磐大会　ウクライナ避難者緊急支援募金活動（2022 年 4 月 2 ～ 3 日）
・南海トラフ災害対応プラットフォーム協力医療機関 倉敷中央病院勉強会
（2022 年 5 月 17 日、7 月 14 日、9 月 8 日）
・徳島県西部災害医療 Web セミナー（2022 年 6 月 20 日）
・高知県協議会（2022 年 7 月 19 日）
・高知県黒潮町総合防災訓練（2022 年 9 月 4 日）
・CFU47「希望の大地」チャリティーツアー
ウクライナの歌姫　ナターシャ・グジーコンサート（2022 年 10 月 10 日）
・イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン募金活動（2022 年 11 月 11 日、2023 年 1 月 11 日）
・高知県高知市防災訓練（2022 年 11 月 13 日）
・徳島県阿南市主催「令和 4 年度四国の右下防災旬間関連事業（阿南市参加課目）」（2022 年 11 月 27 日）
・AMDA 連携シンポジウム（主催：イービーエム株式会社、2023 年 1 月 18 日）
・岡山県総社市防災訓練（2023 年 2 月 5 日）

会計報告

貸借対照表

2023年3月31日現在（単位：円）

資　産　の　部		負債・正味財産の部	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	581,270,533	未払金	3,736,544
未収会費	90,000	前受金	105,372,650
未収金	57,619	預り金	131,398
棚卸資産	8,444,437	流動負債計	109,240,592
前払金	579,800		
前払費用	299,300	負債合計	109,240,592
仮払金	3,511,654	【正味財産】	
立替金	15,273	前期繰越正味財産	449,225,336
流動資産計	594,268,616	当期正味財産増減額	95,738,601
【固定資産】		正味財産計	544,963,937
有形固定資産	1,637,071		
投資その他の資産	58,298,842		
固定資産計	59,935,913		
		正味財産合計	544,963,937
資産合計	654,204,529	負債及び正味財産合計	654,204,529

活動計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで（単位：円）

【経常収益】		
受取会費	5,365,000	
受取寄附金	194,447,211	
受取助成金等	5,583,833	
事業収益	1,370,585	
その他収益	4,277,800	
経常収益計		211,044,429
【経常費用】		
【事業費】		
人件費	30,365,363	
その他経費	60,316,811	
事業費計		90,682,174
【管理費】		
人件費	10,102,710	
その他経費	10,464,631	
管理費計		20,567,341
経常費用計		111,249,515
当期経常増減額		99,794,914
【経常外費用】		
固定資産除・売却損	4,056,313	
経常外費用計		4,056,313
税引前当期正味財産増減額		95,738,601
当期正味財産増減額		95,738,601
前期繰越正味財産額		449,225,336
次期繰越正味財産額		544,963,937

2022 年度

パキスタン洪水被災者支援活動